

日本産主要動物の種別知見総覧 (56)

オオゴキブリ (1)¹⁾

大 野 正 男²⁾

Bibliographical monograph of the selected important animals
occurring in Japan (57) *Panesthia angustipennis spadica*
(Shiraki, 1906) (Blattaria: Panesthiidae) (1)

Masao OHNO

オオゴキブリは当初 (1801 年), スマトラ産の標本に基づき, ドイツの昆虫学者 Johan C. W. Illiger により *Blatta angustipennis* なる学名の下に記載され, 後 (1931), フランスの昆虫学者 Audinet-Serville (1775~1858) は *angustipennis* をタイプとして創設した *Panesthia* に所属変更し, オオゴキブリの学名を *Panesthia angustipennis* に改めた.

日本のオオゴキブリについては松村松年 (1898) が「日本昆虫学」の中で *Panesthia angustipennis* の学名を当て, オオアブラムシなる和名を与えた. これが日本からの最初の記録である. 1904 年の「日本千虫図解」, 1901 年の昆虫分類学などでもこの扱いが踏襲されている. しかるに 1913 年の「新日本千虫図解」では日本産のオオゴキブリを 2 型に分け, その一つを *P. morio* タイワンオオゴキブリ, もう一つをツノオオゴキブリ *P. javanica* とした. *morio* については具体的な産地を挙げていないが *javanica* については“播州 (兵庫) ニテ捕獲セシモノナルガ其数多カラズ”としている.

1906 年, 松村の弟子素木得一は, 日本産ゴキブリに関する重要な論文を発表した. その中で素木は, 松村が *javanica* としたものを *angustipennis* に戻しただけでなく, 名和靖が岐阜で採集した標本 (幼虫) を *angustipennis* と異なる別種と見なし, これを *Cryptogercus spadicus* なる学名の下に新種として記載した. 1931 年, 素木は日本産ゴキブリにつき再度 revision を試みた. この中で素木は *spadicus* を *Cryptogercus* から *Panesthia* に改め, 日本の *Panesthia* 属を *spadicus* (分布は日本だけでなく, 台湾・中国に

1) 種別知見総覧 通し番号 No. 101

2) 東洋大学自然科学研究室 ☎ 351-8510 埼玉県朝霞市岡 2-11-10

Nat. Sci. Lab., Toyo University, 11-10, Oka 2, Asaka-shi, Saitama 351-8510, Japan

も及ぶとする), *angustipennis* (分布は日本からスマトラ), *incerta* (分布は琉・台・ビルマ) の3種とした。

松村 (1931) も日本昆虫大図鑑の中で日本の *Panesthia* を3種とした。ただし内訳は *angustipennis* オオゴキブリ, *spadica* ツノオオゴキブリ (1913に用いたツノオオゴキブリの学名 *javanica* を排す), *morio* タイワンオオゴキブリ (素木の *incerta* は用いない) で素木の扱いとはやゝ異なっている。

1941年, 古川晴男は隠岐産直翅類を扱った論文の中でオオゴキブリをとりあげ, 日本産のオオゴキブリ類は従来 *angustipennis* とされたものを含め, すべて *spadica* として扱うべきであろうとした (和名としてはツノオオゴキブリを用いる)。素木は1931年の *revision* まで和名を用いなかったが, 1932年の「日本昆虫図鑑」で初めて *angustipennis* にオオゴキブリを用いた。そして1949年の「学生版日本昆虫図鑑」では *spadica* にオオゴキブリを当てたが, 1950年の「日本昆虫図鑑 (改訂版)」では再び *angustipennis* にオオゴキブリの和名を当てている。そしてこの扱いは1954年の「昆虫の分類」でも踏襲され, 古川 (1941) の見解が反映されることはなかった。

しかし, 朝比奈正二郎 (1965) は「原色昆虫大図鑑」でゴキブリを解説した際, 和名オオゴキブリ, 学名 *P. spadica* で本種をとりあげ, 日浦 勇 (1977) も「原色日本昆虫図鑑 (下) 全改訂版」に本種を含め, オオゴキブリの学名は *spadica* とすべきであること, *angustipennis* を当てるのは誤りであることを強調した。

米国の昆虫学者 Louis M. Roth は, 1979年, 276頁に及ぶオオゴキブリ亜科のモノグラフを公表した。そしてこの中で日本産オオゴキブリにもふれ, 学名は *P. angustipennis spadica*, 分布は本州・四国・九州, それに対馬・種子島・屋久島・琉球・台湾とした (中国から *spadica* の学名で記録されているものは *cognata* の誤りとする)。

それから9年後 (1988), 朝比奈正二郎は日本産オオゴキブリ属について再検討し, 分類ノートの形でその結果を公表した, そして学名は Roth と同様, *P. angustipennis spadica* を採用した。しかし, 分布については見解を異にし, *spadica* が当てられるのは日本と台湾に産するものだけ, 琉球列島の大部分は分布域から除外し (クチキゴキブリ類の方は分布), 八重山には分布するものの, ここのオオゴキブリは別個体群として扱うべきものと考え, 新亜種 *yayeyamensis* の学名を与えて記載した。日本産と台湾産の個体群の扱い方など, 多少問題が残っているように思えなくもないが, 日本産オオゴキブリの分類学的処理はおおむねこのような形で落ちつきそうである。この扱いの大綱は前川清人ほかによる DNA 分析でも裏づけられている。 (1999, 2000 ほか)

以上を要約すると, 日本産のオオゴキブリ (クチキゴキブリを除く) は学名 *Panesthia angustipennis spadica* (Shiraki, 1906), 和名はオオゴキブリ (ツノオオゴキブリの和名が当てられたものはオオゴキブリの否), 分布は本州~屋久島およびその周辺島嶼と台湾ということになり, 八重山諸島に分布する個体群は *spadica* と区別し, *Panesthia angustipennis yayeyamensis* Asahina, 1988 として扱われることになる。

オオゴキブリは屋外性の大型ゴキブリとしてよく知られる。新成虫は灯火にも誘引されるので人家周辺, 時には屋内で発見されることもなくはない。しかし, そうした例は極く

稀と見てよい。朽木内に定着した個体の飛翔分散はほとんど見られないが、新成虫は飛翔力を持ち、それにより分散を行うようである。

ほとんど常に倒木や立枯木で発見され、発見される個体の翅はすり切れている場合が多い。これは成虫になってから長く生き続けるため（5～6年に及ぶ例が知られる）であろうが、クチキゴキブリの場合、新成虫は分散して朽木に到着した後、翅を食い合ってこれを失うといわれているので、未確認ではあるがオオゴキブリにも弱いながらそれに似た習性があるのかもしれない。

朽木内では木質部を餌とするが、その際、腸内に見られる共生繊毛虫の助けを借り、セルロースを分解するといわれている。日本のオオゴキブリでは *Clevelandellidae* の *Clevelandella* 属の4種 (*nipponensis*, *panesthiae*, *contorta*, *constricta*) と *Paraclevelandia* 属の1種 (*simplex*) それに *Nyctotherus unichancoi* などが知られる。

産地については *angustipennis*, *spadica*, *morio* など、屋久島以北から報告されているものをすべてオオゴキブリとして扱うと、北海道を除くほぼ全県に及ぶ。記録のないのは秋田・群馬・埼玉・山梨の4県だけであるが、これらの県からも今後の調査で発見される可能性は大きい。また本州・四国・九州だけでなく佐渡以西の日本海の島嶼、宮城県の金華山以南の太平洋沿岸や瀬戸内海の島嶼、種子島・屋久島を含む九州周辺の島嶼にも分布する（伊豆諸島からの正式記録はない）。北限は青森県西津軽郡岩崎村の十二湖付近である。

熱帯系昆虫の北進は、海流（暖流）とのかかわりをもつ例が多いが、本種の場合、北日本においても深く内陸部に及んでいるのでそのような関係は指摘しにくい。熱帯系のツノクロツヤムシが四国・九州の山地帯に遺存分布するのは、寒冷期にも保温効果のある倒木内を生息環境としているためと考えられるが、オオゴキブリの日本列島への定着も同じように考えてよいのではなかろうか。おそらく暖期に北上し、その後の寒冷期を倒木内で生き残り、今日に至ったのであろう。

本稿は、筆者の個人蔵書「自然誌文庫」に収蔵される文献資料から拾い出したオオゴキブリ関係の文献 542 篇を文献目録の形で整理、その抄録を付記、本種に関する自然誌的知見が総覧できるようにしたものである。収蔵資料の中には未点検のものがかなりあるので、収録もれも少なくないと考えられるが、とりあえずの整理分をオオゴキブリ (1) として印刷に付すことにした。残余についてはオオゴキブリ (2) として、今後新たに公刊されるであろう新資料とともに補完したいと考えている。

本篇を編むに当たって使用した「自然誌文庫」収蔵資料中には、筆者が個人的に購入したものでなく、筆者または文庫宛に寄贈していただいたものが多数含まれている。今回のオオゴキブリ関係では、次に挙げる各位からの資料がそれに該当する。ここに関係者のご芳名を明記し、改めて感謝の意を表明させていただく。（アルファベット順、敬称略、*は故人）

阿部 武・阿波学会・近木英哉・中條道夫・江島正郎（*）・藤村俊彦・福井県自然保護課・後藤 伸・蜂谷 剛・浜口哲一・長谷川道明・穂積俊文・家永善文・池崎善博・石川和男・磯崎恵明・井手野展子・祝原道衛（*）・門脇久志・上田常一（*）・川勝正治・萱

嶋 泉・木元新作・高知県自然保護課・小宮書之助・草刈広一・楠 博幸・松枝 章・三重昆虫談話会・三浦 正・長崎県生物学会・長島義介・中田昭吾・仲井啓郎・中村慎吾・中谷 充・成田行弘・名和秀雄・日大動植物研究会・西川芳太郎・大分県環境保健部・大倉正文(*)・大津 高・大塚 勲・岡留恒丸・坂部元宏・酒井雅博・佐々治寛之・佐藤正孝・下野谷豊一・新保友之・白畑孝太郎(*)・白水 隆・杉 繁郎・高桑正敏・竹本卓哉・田辺秀男・田中忠次(*)・田中亮三・田中 正(*)・富樫一次・徳本 洋・富田靖男・豊島 弘(*)・浦川虎郷・浦田明夫・薄葉 重・八木沼健夫(*)・山本義丸・山下善平(*)・山内 智・淀江賢一郎

- 1) 阿部 武(1991) バッタ類,「白河の動物」:73~75(自刊)
オオゴキブリが白河市八溝山で見られることにふれる.
- 2) 阿江 茂・安藤尚・佐藤正孝ほか(1974) ゴキブリのなかま,「文研の学習図鑑 生物の世界・昆虫——くらしとなかま」:113(文研出版)
オオゴキブリを含む,全形図(カラー)と略解,分布(本州西南部・四・九・屋),生息環境(屋外の朽木の木の穴)など.
- 3) 阿江 茂ほか(1981) ゴキブリ目,「自然保護読本自然のしくみ(昆虫)」:27~28(愛知県自然保護課)
オオゴキブリを愛知県の所産種の一つとして挙げる.
- 4) 阿江 茂ほか(1983) オオゴキブリ,「昭和57年度自然環境保全基礎調査・昆虫分布調査報告書(調書)」:112~114(愛知県)
1981~1982の調査での確認地列挙,北設楽郡:設楽町神田;南設楽郡鳳来町長篠・能登瀬林道;新城市:八束穂・中宇利,富岡;宝飯郡:一宮町長山・東上,御津町御津山・広石,音羽町;豊川市:財賀寺・為当町・白鳥町;豊橋市:石巻本町,長楽・石巻中山町・杉山町・雲谷町;渥美郡:渥美町山田,泉福寺南麓;蒲郡市:五井町・宮成町・竹谷町;岡崎市:本宿町;瀬戸市定光寺・正伝池付近;春日井市:外之原町;犬山市大泉神社.
年月日,成・幼虫の別,個体数など省略,生息樹種としてシイ・アラカシ・カシの1種・コナラ・サクラなどが付記されている.
- 5) 相坂耕作(1988) オオゴキブリ——森林にすむ清潔なゴキブリ,「播磨の昆虫」:133~134(神戸新聞社総合出版センター)
照葉樹林の発達した比較的深い山の倒木に住むこと;姫路市の書写山などで見られること;などにふれる.
- 6) 相坂耕作(1998) 播磨の昆虫ゴキブリ分布資料,「赤穂市立海洋科学館研究資料12」:27~28(同科学館)
オオゴキブリが赤穂市坂越生島で確認されていること;播磨は本種の基準産地であること;などにふれる.
- 7) 相坂耕作(1999) 新宮町の昆虫,「新宮の自然(新宮町自然調査報告1)」:119~146(兵庫県揖保郡新宮町教育委員会)

所産種の一つにオオゴキブリを挙げる。データなし。

- 8) 相坂耕作ほか (1994) ゴキブリのなかま。「ひめじの昆虫Ⅱ」: 53 (ひめじ花と緑の協会)
オオゴキブリが山地で見られることにふれる。生態写真 (カラー) をつける (兵庫県姫路市)。
- 9) 秋山蓮三 (1914) オオゴキブリ。「内外普通動物誌・無脊椎動物篇」: 追331 (興風社)
Panesthia angustipennis Ilig の学名で記録。ゴキブリの最大種とする。
- 10) 乾風 登 (1966) 朝比奈博士一行と共に。南紀生物, 8(2): 75~76
オオゴキブリの記録を含む。和歌山県友ヶ島, 1966. 10. 23, 幼虫多。
- 11) 乾風 登 (1988) 昆虫類。「美浜町史 (上)」: 330~351 (日高郡美浜町)
オオゴキブリが煙樹海岸の倒木や朽木中で見られることにふれる。
- 12) 乾風 登・後藤 伸・吉田元重 (1983) 友ヶ島の昆虫相。「友ヶ島学術調査」: 109~129 (和歌山市)
松枯れの樹皮下で見られる昆虫としてオオゴキブリを挙げる。
- 13) 乾風 登・後藤 伸・吉田元重 (1983) 友ヶ島の昆虫綱目録。「友ヶ島学術調査」: 253~273 (和歌山市)
オオゴキブリの記録を含む。和歌山市沖の島, 1982. 5. 2 (ex. なし)。
- 14) 青木淳一 (1966) オオゴキブリ *Panesthia spadica* Shiraki。「標準原色図鑑全集 2, 昆虫」: 92, pl. 43 (保育社)
♂および幼虫のカラー写真と略解。分布 (屋久島~新潟), 生息環境 (朽木中), 日本最大種であること, など。
- 15) 青木忠雄 (1948) 冬の昆虫。インセクト, 1(5): 1~4
オオゴキブリを含む。アカマツ・モミの朽木の樹皮下及び朽ちた材部を穴をうがって住み, 家族生活というほどのものは見られないが adult や各 stage の nymph が接するほど群生, 家族生活への過程にあるのではなかろうか, と付記。採集記録: 東京都八王子市高屋山, 1948. 3. 21, 1 ♂, 2 ♀ + 幼 9 exs. (500m); 1948. 3. 26, 幼 1 ex. (400m)。
- 16) 青木俊明・植村好延・山口就平 (1989) オオゴキブリ。「自然ガイド・むし」: 215 (文一総合出版)
朽木中に生活し, 一年中見られるが成虫は少ないこと (翅の切れている個体が多い), 分布 (本・四・九) など。原色図をつける。
- 17) 青野孝昭・奥島雄一 (1994) 昆虫類。「倉敷市生物目録」: 93~233 (倉敷市立自然史博物館)
オオゴキブリを所産種の一つに挙げる。近藤 (1991), 岡山県 (1993) の引用。
- 18) 青野孝昭・重井 博 (1993) 昆虫。「おかやまの自然 (第2版)」: 215~267 (岡山県環境部自然保護課)

- オオゴキブリの標本写真(カラー)と解説を含む。良好な自然の森の朽木中に生息するとし、臥牛山、由加山を例に挙げる。
- 19) 荒牧英統(1983) ゴキブリ2種の採集例. 熊本昆虫同好会会報, 29(1): 21
オオゴキブリの記録を含む。球磨郡五木村頭地、相良村北岳神社; 八代郡泉村坂木; 芦北郡芦北町~水俣市(大関山)。
- 20) 浅田 卓(2001) 兵庫県北部におけるオオゴキブリの越冬について。きべりはむし, 29(1): 51
養父郡大屋町夏梅, 2001. 1. 6, 1 ex. ヒノキ倒木の樹皮下より得られたこと; 潜伏場所は雪が入り込んで氷状になっていたが、オオゴキブリは生きていて、温度が上ると動き出したことなど付記。
- 21) 朝日 稔・井上朋子・山本教子・大島恵子・奥浜明子・花谷千代美・榎本千里(1968) 年対馬における昆虫採集目録. 武庫川女子大学紀要(自然科学), (16): 11~18
オオゴキブリの記録を含む。上県郡上県町志多留, 1968. 8. 2~6, 1 ex.
- 22) 朝比奈正二郎(1965) オオゴキブリ, 「原色昆虫大図鑑Ⅲ」: 61, pl. 31(北隆館)
Panesthia spadica Shiraki の学名でとりあげる。形態のほか、分布を新潟~屋久島とする。(九州南部~琉・対には小城で別属の数種を産すと付記)。標本写真(カラー)をつける。
- 23) Asahina, S. (1970) *Blattaria, Grylloblattodea and Isoptera* of Tsushima. Memoire of National Science Museum, (3): 233~235
オオゴキブリの記録を含む (*P. spadica*).
Ariakeyama, 1957. 23, 幼 1 ex.; 1959. 3. 28-30, 1♂, 3♀, 幼 1 ex.; Meboro, 1968. 6. 11, 幼 2 exs.; sasuna, 1968. 10. 17, 幼 1 x.; Shiratake, 1969. 7. 24, 幼 1 ex. 日本列島では青森県まで分布すると付記。
- 24) 朝比奈正二郎(1973) 採集品目録, 「四国南西部10月の昆虫類」: 1(日本昆虫学会四国支部)
オオゴキブリの記録を含む。高知県土佐清水市足摺岬, 1972. 10. 27, 1 ex. (死体)。
- 25) 朝比奈正二郎(1974) ゴキブリ, 「万有百科大事典20. 動物」: 269(小学館)
オオゴキブリの生態写真(カラー)と解説, 腸内の共生微生物, 卵胎生, 成・幼虫が群居して家族生活の始まりを示すこと, など。
- 26) 朝比奈正二郎(1988) 日本産ゴキブリ分属ノートXVII オオゴキブリ属の種類. 衛生動物, 39(1): 53~62
オオゴキブリの学名は素木得一(1906)が、岐阜産の標本に基づいて記載した *Cryptogercus spadicus* を有効名と見做し, *Panesthia angustipennis spadica* (Shiraki) とするのが妥当であること; 台湾産のオオゴキブリも同じ学名で扱えること; 石垣島と西表島産の個体群は台湾・日本産と区別できること(亜種 *yayeyamensis* として記載); のほか♂, ♀成虫の

記載, 学名の変遷史, 所検標本のデータ, 分布, などと取りあげる. 前胸背板, 前肢腿節前下縁, 肛上板背面, 腹部後端腹面, 性交尾器などの図, オオゴキブリ亜種群の分布図. オオゴキブリ・亜種 *yayeyamensis* の成虫・幼虫などの標本写真をつける. 標本産地 (採集データ省略): 山形 (飯豊山温身平), 新潟 (勝木・黒川・鷹ノ巣・三面・能生), 富山 (小川温泉), 石川 (能登一ノ宮・山伏山), 茨城 (大子), 東京 (高尾山), 神奈川 (小田原大雄山), 静岡 (熱海市), 岐阜 (ギフヤマ・岐阜市金華山), 京都 (京都市高雄), 奈良 (春日山), 兵庫 (香澄), 広島 (向字品・三段峡), 徳島 (伊島), 長崎 (高木町轟峡), 熊本 (球磨村神瀬), 宮崎 (市房山麓・加江田), 鹿児島 (栗野温泉・鹿児島市城山. 佐多岬馬籠〜大泊), 佐渡 (Kobie), 隠岐 (別府・仏谷), 香取 (シラサ八幡), 対馬 (有明山・巖原・白岳・目ボロ・佐須奈・大星山・竜良山・佐須奈〜巖原), 五島 (中通島), 屋久島 (安房・宮ノ浦・安房〜小杉谷・楠川〜三本杉); 地理的分布: 前記標本産地に青森・宮城・福島・栃木・千葉・愛知・滋賀・大阪・鳥取・大分を加える.

- 27) 朝比奈正二郎 (1988) 日本産ゴキブリ分類ノート XVIII. クチキゴキブリ属の種類衛生動物, 39(3): 257~263
 オオゴキブリ亜科に含まれる 2 属のうち *Salganea* 属に属する邦産種の解説 *S. esakii* エサキクチキゴキブリ (新称), *S. taiwanensis taiwanensis* タイワンクチキゴキブリ (新称), *S. taiwanensis ryukyuanus* (新亜種, 新称) を含む. *Salganea* 属と *Panesthia* 属の比較にもふれる.
- 28) 朝比奈正二郎 (1991) *Panesthiidae* オオゴキブリ科. 「日本産ゴキブリ類»: 192~216, pls. x~xi (中山書座)
 ゴキブリ分類ノート XVII の内容とはほぼ同じ. 冒頭にオオゴキブリ科の概説と *Panesthia salganea* の属の検索表を加え, 図は一部省略, 標本写真も整理されて図版 (口絵) にカラー写真で納める.
- 29) 朝比奈正二郎 (1991) 南西諸島におけるゴキブリ類の貴重種とその保護について. 「平成 2 年度南西諸島における野生生物の種の保存に不可欠な諸条件に関する研究報告書»: 278~285 (環境庁自然保護局)
 オオゴキブリ (屋久島), ヤエヤマオオゴキブリ (西表・石垣) を分布表に含める.
- 30) 浅野勝司 (1959) 益子でオオゴキブリを採集. インセクト, 10(2)
 栃木県芳賀郡益子町西明寺裏での記録. 1959. 1. 24, 2 ♀; 1959. 5. 31, 2 exs.
- 31) 浅岡孝知 (1980) 渥美半島の直翅目. 「渥美半島の昆虫»: 30~32 (東三河アマチュア昆虫研究グループ)
 オオゴキブリの記録を含む. 渥美町木花, 1979. 4. 1, 3 exs.
- 32) 浅岡孝知 (1996) 渥美半島田原町の昆虫相. 虫譜, (別冊): 1~54

- オオゴキブリの記録を含む。芦村, 1991. 1. 13, 1 ex.; 蔵王山 (鈴木友之, 1982)
- 33) 淡路文化史料館 (1996) ゴキブリの仲間. 「淡路島の自然シリーズ・淡路島の昆虫」: 4 (同館)
オオゴキブリを所産種の一つに挙げる。標本写真 (モノクロ) をつける。
- 34) 東 正雄・新家 勝 (1992) 宝塚の昆虫 I. 宝塚市文化財調査報告, (27): 1~217, 6 pls. (宝塚市教育委員会)
オオゴキブリの記録を含む。宝塚市川面 4 丁目皇太神社, 1979. 7. 28; 北部西谷尾切, 1985. 8. 5; 武田尾溪谷, 1991. 11. 17 (アカマツの枯株内で越冬の個体)。尾切産成虫の標本写真 (モノクロ) をつける。
- 35) 東 清二・金城政勝 (1987) オオゴキブリ科. 「沖縄産昆虫目録」: 12 (沖縄生物学会)
所産種の一つとしてオオゴキブリ *Panesthia angustipennis* を挙げ, 分布地として沖・西表・奄大, 九〜本, 台, 比, スマトラ, ボルネオ, マレーシア, アンボyna を挙げる。
- 36) 馬場金太郎 (1982) 琉球列島で得られたゴキブリ類, 蜻蛉類及びトンボダニカ類の記録. 越佐昆虫同好会々報, (53): 71~75
オオゴキブリの一種を *Panesthia sp.* として記録. 石垣島: Mt. Omoto, 1981. 4. 18, 幼虫 1 ex. 西表島: Mt. Komi, 1981. 4. 23, 幼虫 1 ex.
- 37) 馬場金太郎・樋熊清治・吉沢正治・丸山良知 (1953) ヒメハルゼミの北限地帯能生の昆虫相を探ぐる. 越佐昆虫同好会々報, 7(3): 83~85
オオゴキブリを所産種の一つに挙げる。新潟県西頸城郡能生町。
- 38) Bei-Bienko, G. Ya. (1950) Fauna USSR. Insects: *Blattodea*, *Panesthiidae*. Inst Zool. Acad. sci. URSS (N.S.), 40: 327~336, Moscow
Penesthia angustipennis Illig. (p. 330~331) と *P. spadica* Shiraki (p. 331) を再記載し, 両種の検索表と東京産 *spadica* (♀) の全形図をつける。分布については *angustipennis*: 朝鮮, 東シベリア (プリモルスキー地方), 琉球, 日本南部, 台湾, 南方地域; *spadica*: 東京近傍 (新記録とする)・岐阜, 台湾, 中国; とする。
- 39) 別府隆守 (2000) 三原村の昆虫. 土佐の自然, (84): 9~11
幡多郡三原村今ノ山の所産種の一つとしてオオゴキブリを挙げる。データなし。
- 40) 千葉県自然保護課 (1986) 八幡山郷土環境保全地域. 「房総の自然保全地域ガイドブック」: 48~49 (同課)
オオゴキブリを所産種の一つに挙げる。千葉県茂原市。
- 41) 近木英哉 (1972) 島根の昆虫. 「島根県自然保護基本調査書中間報告書」: 63~82 (島根県)
オオゴキブリを所産種の一つに挙げる。新潟北限, 県内では星上山が唯一

の産地であるが朽木がなくなり個体数が減少したこと, など.

- 42) 近木英哉 (1975) 隠岐島 (4) 昆虫 隠岐島に生息する昆虫. 「島根県自然環境保全地域候補地学術調査報告書 (2)」: 35~39, 表 1~35 (県環境保健部)
オオゴキブリを所産種の一つに挙げる.
- 43) 近木英哉 (1980) 八雲村の動物 (2) 昆虫類. 「八雲村動植物分布調査」: 14~19 (同教育委員会)
オオゴキブリが星上山に産し, 数年前まで朽木から数多く見出されたが, 近年ほとんど見られなくなったことなど. 八束郡八雲村.
- 44) 近木英哉 (1981) 台所には縁のないゴキブリ. 「山陰の虫たち」: 12~13 (報光社, 島根県平田市)
広葉樹林の朽木中で見られるゴキブリとしてオオゴキブリをとりあげる.
学名は *Panesthia spadica* を用いる. 海岸部に多いが, 星上山や月山の山頂付近, 松江駅の小荷物受付で見たこともあると付記. 標本写真をつける.
- 45) 近木英哉 (1982) オオゴキブリ. 「島根県大百科事典 (上)」: 256 (山陰中央新報社)
松江市, 伊賀郡三隅町周辺に多産地があること (新潟を分布北限とする)
のほか, 生息環境, 生態などの解説. 成虫標本写真 (モノクロ) をつける.
- 46) 近木英哉 (1983) 島根の自然と昆虫. 季刊文化財, (8): 22~24
オオゴキブリの産地として星上山 (八束郡八雲村) を挙げる.
- 47) 近森郁雄 (1949) 四国産昆虫雑録 (二). 土佐昆虫同好会々報, 1(1): 5
オオゴキブリが長岡郡大豊町梶ヶ森 (登山口よりやや上方の朽木及其の付近) で得られることなど.
- 48) 出嶋利明 (1996) 屋久島・口永良部島採集行. へりぐろ, (17): 27~39
オオゴキブリの記録を含む. 屋久島 (屋久町) 安房林道, 1995. 7. 30, 1 ex.
- 49) 海老原史郎・鹿島一男・金井節博・茅根重夫 (1971) 筑波研究学園都市地区動物補遺. 「昭和45年度自然財分布調査報告書」: 92~101 (茨城県高校教育研究会生物部)
オオゴキブリの記録を含む. 筑波山, 1970. 8. 25, 幼虫.
- 50) 江島正郎・峰 正隆・水上 靖・桃下 大・田中 清 (1988) 本明川の昆虫相. こがねむし, (49): 10~28
オオゴキブリの記録を含む. 1987. 7~8 月, 長崎県諫早市の本明川 (河口付近の樹林に多いことにふれる).
- 51) 榎本 治 (1937) 城山採集記. Protoplasm, 5(15): 33~34
ツノオオゴキブリの記録を含む. 東京都八王子市城山, 1937. 10. 24.
- 52) 江崎悌三・朝比奈三郎・長谷川 仁・加納六郎・中根猛彦・平嶋義宏 (1953) 大隅採集旅行記. 新昆虫, 6(3): 32~43, 45, 4 pls.
オオゴキブリの記録を含む. 佐多岬付近, 1952. 5 (鹿児島県大隅郡佐多町).

- 53) 江崎悌三・古川晴男・黒沢良彦 (1956) おおごきぶり. 「天然色昆虫図鑑」: 213, 336 (学習研究社)
成虫の標本写真(カラー)と略解. 分布(本・四・九・琉), 生息環境(暖地の朽木中), 出現期(6~10月), ハネの完全なものが少ないことなど.
- 54) 藤枝俊英 (2000) 2学期の研修会(尾鷲市および海山町)で観察した昆虫. 三重生物, (50): 32
オオゴキブリの記録を含む. 尾鷲市九鬼の九鬼神社, 1999. 10. 15, 2 exs. 目撃.
- 55) 藤井伸二・藤井俊夫 (1979) 長谷寺与喜山の観察会. ぱったりぎす, (14): 219~221
オオゴキブリの記録を含む. 1979. 3. 25, 多数, 奈良県桜井市長谷寺. 幼齢幼虫の図あり.
- 56) 藤井俊夫 (1980) 屋久島でみられた直翅類. ぱったりぎす, (80): 82~83
オオゴキブリの記録を含む. 愛子岳(1235m)の登山口(700m), 1986. 7. 30~8. 13 (死体).
- 57) 藤井俊夫 (1990) 春日山の直翅類. ぱったりぎす, (87): 5
オオゴキブリの記録を含む. 奈良市春日山, 1989. 5. 9, 1 ex.; 7. 8, 1 ex.; 7. 20, 1 ex.; 10. 31, 1 ex.; 1999. 5. 25, 1 ex.
- 58) 藤村俊彦 (1957) 「広島市江波町産昆虫目録」: 1~86 (自刊)
オオゴキブリの記録を含む. 衣羽神社, 1947. 7 (朽木中); 江波山頂, 1948. 7. 25 (朽木中).
- 59) 藤沢信一 (1981) 日本では最大・オオゴキブリ. 「大分の生物」: 138 (大分合同新聞社)
津久見島の記録. 他に日田の亀山公園, 九六位など数ヶ所でみつかることにふれる.
- 60) 藤田 宏 (1984) オオゴキブリの1種と同居越冬していたサキシマヒラタクワガタ. 月刊むし, (158): 33
石垣島パンナ岳での記録. 幾重にも交互に重なり合う形で見出されたと付記.
- 61) 福田 彰・阿部 東・菊池幸夫・今 純一・山内 智 (1996) 昆虫・蜘蛛. 「白神山地の自然——笹内川流域・十二湖周辺」: 53~103 (青森県立郷土館)
オオゴキブリの記録を含む. 青森県西津軽郡岩崎町十二湖, 1990. 7. 26, 幼虫 7 exs. 日本最北の棲息地であろうと付記.
- 62) 福田晴夫・田中 洋・成見総和・中尾健一郎 (1971) 屋久島, 8月の昆虫類. Satsuma, 20(60): 51~79
オオゴキブリの記録を含む. 上屋久町楠川~三本杉, 1967. 8. 14, 1♂, 2♀. *Salganea* 属のゴキブリにもふれる(和名をコバネオオゴキブリと仮称),
- 63) 福田 治 (1963) 福岡市今宿上ノ原地区産昆虫目録. 博多虫, (4): 1736

オオゴキブリを含む, 1992. 5. 17, 2 exs. ; 1993. 3. 3, 2 exs.

- 64) 福田 治 (1993) 福岡市今宿上ノ原地区の昆虫 (2) 北九州市山田緑地との比較.
わたしたちの自然史, (46) : 11~15
オオゴキブリが上ノ原の枯れたマツで見られることにふれる.
- 65) 福田哲郎 (2001) オオゴキブリ. 南大阪の昆虫, 3(4) : 18
和泉市槇尾山での記録. 2001. 8. 4, 1 ex.
- 66) 福原檜男 (1959) オオゴキブリ. 「新原色昆虫図鑑」: 12, pl. 4 (三省堂)
Panesthia spadica の学名で解説. 分布は宮城 (金華山) 以南, 九州以南
にはヨロイゴキブリ *P. incerta* が分布することにふれる.
- 67) 福井県博物学会 (1938) オオゴキブリ. 「原色福井県昆虫図譜」: 134, pl. 62 (同学会)
大飯郡高浜町産 (1933. 7. n) の標本写真と略解. 県内分布: 坂井, 南条,
敦賀, 三方, 遠敷, 大飯.
- 68) 福貴正三 (1934) 採集彙報. 関西昆虫雑誌, 2(1) : 22
ツノオオゴキブリの記録を含む. 箕面山近くの新稲阿比太神社境内, 1933.
12. 3, マツの朽木中より多数.
- 69) Fritze, A. (1894) Die fauna der Liu-Kiu Insel Okinawa. Zoologischen Jahres-
bericht, 7 : 852~926
Panesthia histrio を記録. データはない (ジャワ・スマトラに産する種
とする).
- 70) Furukawa, H. (1941) Some tropical elements of Orthopteroidea from Oki Is.
Zoological Magazine, 53(6) : 299~302
Panesthia spadica ツノオオゴキブリとして隠岐諸島西ノ島 (知夫里島と
誤記) 美田より記録. 日本産のオオゴキブリは幼虫の中後胸背に橙色斑を
欠くことでフィリピンの *aethiopis* などと区別できること, また従来 *an-*
gustipennis の学名があてられていたものもこの *spadica* とすべきであろ
うこと (*spadica*, *aethiopis*, *angustipennis* の比較表をつける) などの
ほか, オオゴキブリ亜科 *Panesthinae* 諸属の属名を挙げ (*Cryptocercus*.
relictus にクチキゴキブリなる和名を与える), 朽木内での生活, 亜社会
的昆虫とすることの問題点などにもふれる.
- 71) 古川晴男 (1957) カマキリ・ゴキブリの採りかたと飼いかた. 「少年少女動物図解
百科 1. とりかたとかいかた」: 104~105 (岩崎書店)
オオゴキブリにふれ, 生息環境, 分布 (本州中部以南), 繁殖法 (卵胎生)
などを扱う. 朽木と成虫の凸版図をつける.
- 72) 古川晴男 (1976) ゴキブリとはどんな昆虫か. 「ゴキブリなんでも事典」: 23~45
(ベップ出版)
オオゴキブリの凸版図と略解. 学名は *Panesthia spadica*. 朽木中に住み
本州中部を分布の北限とする, など.

- 73) 古川晴男 (1965) オオゴキブリ, 「原色昆虫百科図鑑」: 251, pl. 12 (集英社)
Panethia spadica の学名で解説. 形態, 生息環境 (朽木中, 朽木を食べる), 分布 (関東以西の本州, 台・中国), など. 成虫の全形図と♀の頭胸部の図 (カラー) をつける.
- 74) 古川晴男 (1970) ゴキブリ, 「昆虫の事典」: 127~130
オオゴキブリの解説を含む. 高尾山や隠岐あたりが北限 (1月平均気温 3.0°C 等温線にだいたい相当) とし, 朽木の中に住むことにふれる.
- 75) 後藤光男ほか 8 名 (1985) 芦生の合宿でみられた昆虫. *Nature Study*, 31(10): 118~120
オオゴキブリの記録を含む. 京都府北桑田郡美山町芦生 (京大演習林), 1985. 7. 26~28 (ex. なし).
- 76) 後藤 伸 (1979) 文化財としての田辺の動植物 [V]. 田辺文化財, (22): 5~9
オオゴキブリ: 田辺市付近では斗鶏神社・稻成神社はじめ天王池の森や高山寺の森など局部的. 稀にシイタケの栽培場や朽木を山積したところで成虫を見ることがあるが一時的生息と考えられる, ことなど. 田辺市秋津町大西産の生態写真をつける.
- 77) 後藤 伸 (2000) ウルシゴキブリ, 「虫たちの熊野——照葉樹林の昆虫たち」: 80~81 (紀伊民報社)
ウルシゴキブリと同様, 森林内の朽木中で生活する大型ゴキブリとしてオオゴキブリを挙げ, 田辺市産 (1999. 9) の標本写真 (カラー) をつける.
- 78) 後藤孝彦 (1966) 広島市周辺の昆虫, 「広島其自然」: 104~105 (六月社)
オオゴキブリの産地として広島市南区元宇品 (写真あり) を挙げる.
- 79) 行幸記念福井県博物学会 (1938) ゴキブリ科, 「原色福井県昆虫図譜」: 134, pl. 62 (同会)
オオゴキブリ, 大飯郡高浜町, 1933. 7. 5. 県内分布として坂井・南条・敦賀・三方・遠敷・大飯を挙げる.
- 80) 行徳直己 (1961) 浮羽郡の昆虫. *Korasana*, 1(2): 3~5
ツノオオゴキブリを所産種の一つに挙げる. 詳記なし.
- 81) 行徳直己 (1985) 釈迦ヶ岳採集紀行 (その 2) 行徳直己採集及び所蔵品. *Korasa-na*, 23(2): 11~16
オオゴキブリのデータを含む. 釈迦ヶ岳峠上, 1982. 9. 16, 幼 1 ex. (福岡県田川郡添田町~朝倉郡宝珠山村).
- 82) 蜂谷 剛 (1971) 背戸峨廊の峨廊, 「背戸峨廊の自然」: 20 (福島県企画開発部観光課)
イヌブナ・モミなどの朽木よりオオゴキブリが得られたことにふれる. 福島県いわき市, 夏井川溪谷県立自然公園内.
- 83) 蜂谷 剛 (1976) ゴキブリ, 「ふくしまの昆虫 (ふくしま文庫24)」: 45 (福島中央テレビ)

オオゴキブリが背戸峨廊, 新田川上流の林内・朽木に生息することにあふれる。

- 84) 蜂谷 剛 (1993) 摺上川ダムによる水没予定地内の動物相, 「摺上川ダム建設予定区域内学術調査報告書. 1. 自然・建造物」: 15~55 (福島市教育委員会)
オオゴキブリの記録を含む. 福島市飯坂町梨平. データなし.
- 85) 蜂谷 剛 (1994) 局所的な分布を示す昆虫, 「福島県博物誌」: 93~101 (自刊)
オオゴキブリを該当種の一つにとり挙げる. 県内ではいわき市の背戸峨廊の林中で数個体採集したことにあふれる. 急坂を登る途中, しがみついた朽木が倒れ, 中からオオゴキブリがそろそろ飛び出したと付記. 標本写真をつける.
- 86) 浜田高校生物学部 (1950) 三瓶産昆虫類仮目録 (1948~1950). 浜田高校生物学部々報, (4): 2~26
オオゴキブリを所産種の一つに挙げる. データなし.
- 87) 浜田昆虫同好会 (1951) 浜田市一帯の昆虫目録. 昆虫石見, (1): 25~53
所産種の一つにオオゴキブリを含める. 島根県浜田市. データなし.
- 88) 浜口哲一 (1999) 動物資料目録Ⅱ (直翅類・ハサミムシ類・カメムシ類・セミ類・アリ類). 平塚市博物館資料, (48): 1~148 (平塚市博物館)
オオゴキブリの標本データを含む. 小田原市栄町, 1991. 8. 8, 1 ex. (死体); 鹿児島県屋久島: 上屋久町宮之浦林道, 1993. 8. 7, 1 ex.
- 89) 原田 栄・根本利一 (1980) 背戸峨廊, 「福島大百科事典」: 531 (福島民報社)
オオゴキブリを所産種の一つに挙げる.
- 90) 長谷川 仁 (1948) ゴキブリ物語. 科学の友, 4(1): 25~27
野外の朽木に住むゴキブリとしてオオゴキブリを挙げ, シロアリと同じように消化管内に多くの原生動物を宿し, セルロースを分解させることにあふれる.
- 91) 橋越清一 (1990) 南予の昆虫雑感 1. コミスジ, (9): 6~7
オオゴキブリの記録を含む. 宇和島市城山, 1989. 6. 17, 2 exs. (標本写真をつける). その他和霊神社, 内海村須の川を産地として挙げる.
- 92) 橋本太郎 (1954) 神宮々域の昆虫調査中間報告. 日本昆虫学会東海支部講演要旨, (1): 1~3
1950~1953の調査で確認できた昆虫の中の興味ある種の一つとしてオオゴキブリを挙げる. データはない.
- 93) 橋本太郎 (1960) 「神宮々域産生物目録Ⅳ. 昆虫類」, IV~XV, 1~58 6 pls. (神宮農業館)
オオゴキブリの記録を含む. 伊勢神宮外宮, 1950. 6. 25; 内宮, 1950. 10. 15.
- 94) 秦 和寿 (1986) 東京高尾山のオオゴキブリ. 昆虫と自然, 21(14): 4
日影沢林道, 1984. 10. 14; 南面の金比羅台付近, 1984. 7. 15. 多摩動物公園に高尾山産の標本 (1964年採) があることにあふれる.

- 95) 早川宏明 (1965) 船生でオオゴキブリを採集. インセクト, 15(2/3): 17
 栃木県塩谷郡塩谷町船生の宇大演習林で, マツの切株内よりオオゴキブリ
 が得られたことにふれる.
- 96) 林 匡夫 (1967) 直翅目. 「箕面山の動物相調査 (改訂版)」: 81~84 (大阪府農林
 部)
 オオゴキブリを所産種の一つに挙げる (白井忠治 1939).
- 97) 樋口弘道 (1992) 昆虫. 「生きている化石 (第40回企画展)」: 16~19 (栃木県立博
 物館)
 オオゴキブリの標本写真とゴキブリの原始性の解説.
- 98) 樋熊清治 (1968) 勝木のオオゴキブリ. NKH, (14): 表紙 2
 岩船郡山北町勝木神社社叢での記録. 1962. 11. 13, 1♂. 標本写真と社叢
 の景観写真をつける. 分布と氷河期とのかかわりにもふれる.
- 99) 日野郡科学教育研究会・日野郡教協教育部理科班 (1955) 動物——直翅目かたご
 きぶり科. 「鳥取県日野郡生物誌」: 99 (同)
 おおごきぶりを所産種の一つに挙げ, 朽木の樹皮の下に多く, ゴツイ感じ
 がする, と付記.
- 100) 平井雅男 (1973) 脇町及びその周辺のトンボ類 (付記 その他の昆虫). 「総合学
 術調査報告脇町及びその周辺 (郷土研究発表会紀要19)」: 29~40 (徳島県
 立図書館)
 オオゴキブリの記録を含む. 徳島県美馬郡脇町御所野, 1972. 8. 2, 1♂.
- 101) 平井雅男・武内恵行 (1956) 阿波・伊島採集記. 阿波の虫, 2(1): 12~14
 オオゴキブリの記録を含む. 阿南市伊島通夜堂~本堂, 1955. 8. 4.
- 102) 平井雅男・敏謙謙次 (1975) 勝浦川上・中流地方の昆虫. 「総合学術調査報告勝浦
 町 (郷土研究発表会紀要21)」: 29~46 (徳島県立図書館)
 1974年の調査で確認された種の中にオオゴキブリを含む. データなし. 徳
 島県勝浦郡.
- 103) Hirayama, S. (1929) Orthoptera, Odonata, Lepidoptera-Rhopalocera. Fauna
 Musashinensis, (1): 4~38, 4 pls. (Musashi Koto Gakko)
 オオゴキブリを *Panesthia angustipennis* の学名で記録. Nogata (東京
 都中野区野方), Aug., very rare と付記.
- 104) 広 正義 (1980) 名古屋市及び近隣に生息する動物に関する調査報告: 1~94 (名
 古屋市公害対策局)
 オオゴキブリの産地として定光寺, 熱田神宮を挙げる.
- 105) 広地 昇・奈良隆史・木戸和伸 (1977) 三熊山の昆虫について. Parnassius, (17)
 : 5~28
 オオゴキブリの記録を含む. 洲本市三熊山 (淡路島), 1976. 7. 23, 1 ex.
 他に石原ほか (1973), 登日 (1974) の記録があることにふれる.
- 106) 広瀬 栄 (1939) ゴキブリ科. 「福井県敦賀郡市昆虫誌」: 120~121 (自刊)

所産種の一つにオオゴキブリを挙げる。データ詳記なし。

- 107) 久川 健 (1982) 神園山でホシベニカミキリとオオゴキブリを採る。熊本昆虫同好会々報, 28(11)

オオゴキブリ: 熊本市小山町神園山, 1981. 6. 28, 1 ex.

- 108) 日浦 勇 (1967) 越冬中のオオゴキブリ幼虫。Nature Study, 13(12): 111, 118
奈良県磯城郡三輪山で撮影 (1967. 2. 1) した幼虫の写真。

- 109) 日浦 勇 (1973) 1971年同定会でみた昆虫。Nature Study, 19(4): 43

オオゴキブリの記録を含む。吉野山如意輪堂手前, 1969. 8, 幼虫。

- 110) 日浦 勇 (1975) 1センチ以上の昆虫誌2。ゴキブリ (2)。Nature Study, 21(5): 50~54

オオゴキブリについての解説を含む。図解検索の中での特徴表示, 文献上に記載された産地一覧, 大阪市立自然史博物館に収蔵されるオオゴキブリの標本データー一覧, 日本列島での分布図など。文献産地——青森: 十三湖, 新潟: 黒川, 石川: 珠洲市山伏山・羽咋市一の宮, 福井: 青葉山, 宮城: 金華山・仙台市, 栃木: 高館山・船生村宇大演習林, 神奈川: 大雄山・小田原高校, 静岡: 岡部町三輪・静岡市・湖西町新所原, 三重: 伊勢内宮・神宮林・大宮町・逢坂峠・熊野市飛鳥村・平倉演習林・熊野灘大島・紀伊長島町鈴島, 滋賀: 木戸, 兵庫: 氷上郡・播州, 島根: 隠岐, 岡山: 蒜山祝詞・湯原, 広島: 広島市元宇品, 山口: 田万川町小川・玖珂郡美川・岩国市・周防大島, 徳島: 大滝山・一本杉, 愛媛: 津和島, 高知: 馬路村・安芸町・松葉川村・平田村・沖ノ島村, 長崎: 長崎市・平戸安満岳・対馬白岳, 宮崎: 日南大島・青島, 鹿児島: 檳榔島・鹿児島市城山・佐多岬。標本産地 (データ省略) ——京都: 京都市九条山, 奈良: 奈良公園・春日山御蓋山・春日山妙見宮道・春日大社廻廊・春日山妙見宮・春日山大杉教会前・桜井市三輪山・多武峯, 大阪: 能勢高台寺山・箕面滝~天上谷・箕面一の橋桜広場・河内長野市天見流谷入口の神社林・岩湧山・岸和田市牛滝, 和歌山: 友ヶ島・沖ノ島・紀伊大島, 鳥取: 若桜町茗荷ダムサイト, 島根: 松江市松江駅南口, 高知: 横倉山・足摺岬金剛福寺, 長崎: 対馬久根田舎・仁田犬ヶ浦・久根~上槻。なお箕面滝~天上谷での個体は飛翔中の♀として記録されている。

- 111) 日浦 勇 (1976) 対馬の蜻蛉目および直翅型昆虫。「対馬の生物」: 511~530 (長崎県生物学会)

オオゴキブリの記録を含む。仁田犬ヶ浦, 久根~上槻, 久根田舎, 上見坂 (1975. 6. 11, 1♀, アカマツ朽木より), 有明山 (1975. 6. 9, 幼虫 4 exs., 立枯木より; 1975. 3. 3, 幼虫 2 exs.)

- 112) 日浦 勇 (1977) オオゴキブリ。「原色日本昆虫図鑑 (下) 全改訂版」: 52, pl. 18 (保育社)

Panesthia spadica の学名で解説。 *angustipennis* Shiraki の学名を当て

るのは誤りであること、形態、生息環境、胎生で原虫が共生すること、越冬（幼・成虫）、高温時朽木外に姿を現わすこと、分布（日本南部、隠岐・対・屋、津軽十三湖のブナ朽木からも得られている）、など。京都府亀岡市千歳町産（1975. 10）の標本写真（カラー）をつける。

- 113) 日浦 勇 (1980) オオゴキブリ, 「第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書(昆虫類)大阪府」: 53 (環境庁)
オオゴキブリの産地列挙. すべて現認. 豊能郡豊能町高台寺山; 箕面市箕面滝~天上谷・滝安寺・一の橋; 南河内郡千早赤坂村建水分神社; 河内長野市天見流谷; 和泉市父鬼八坂神社; 岸和田市牛滝大威徳寺; 泉佐野市犬鳴不動谷入口.
- 114) 日浦 勇 (1982) 臨南寺にオオゴキブリが生き残っていた Nature Study, 28(9): 104
大阪市東住吉区長居公園の西端に位置する臨南寺で. 1982. 7. 29, 1♂.
- 115) 鳳来町自然研究委員会 (1984) 長篠の自然. 「鳳来の自然・報告: II」: 126~144, 2 pls. (鳳来町教育委員会)
オオゴキブリの産地として本郷の富永神社の森 (愛知県南設楽郡鳳来町) を挙げる. 成虫 (カラー-pl.), 幼虫 (モノクロ) の写真と解説をつける.
- 116) 細野典明 (1980) 屋久島春合宿調査報告・昆虫. 日大農獣医学部動植物研究会報, (23): 176~190
オオゴキブリの記録を含む. 屋久町栗生川上流, 1977. 3. 30, 1 ex.
- 117) 堀田 力 (1978) 淡路島産昆虫類採集記録 (II). Parnassius, (19): 10~14
オオゴキブリの記録を含む. 先山, 1978. 7. 26, 1 ex.
- 118) 市橋 甫 (1959) 多産するオオゴキブリ. ひらくら, 3(26): 26
三重県北牟婁郡紀伊長島町の大島, 1956. 6; 1958. 11. 16
- 119) 市橋 甫 (1996) 昆虫3種の同居越冬について. ひらくら, 40(5): 299
四日市市千代田町枯木の空洞 (原木の産地は度会郡玉城町の山林) 中でオオゴキブリ終令幼虫 1 ex., マイマイカブリ 1 ex., ホソアシナガバチ約 30 exs. (2 exs. 採) が見られたこと. 1996. 2. 4
- 120) 市橋 甫・天野春吉・稲垣雄二 (1983) 地底の生物. 「地底の音」: 55~73 (三遠洞くつ研究会)
オオゴキブリ: 静岡県引佐郡引佐町田畑竜ヶ岩洞の洞外, 1983. 2. 5 or 3. 19 (月日いずれであるか特定できず), 1 ex.
- 121) 市橋 甫・生川展行・中西元男・天春明吉 (1991) 尾鷲市桃頭島の昆虫III. ひらくら, 35(3): 33~44
オオゴキブリを含む. 1988. 5. 14, 1 ex. (成虫)
- 122) 市川顕彦 (1987) 大阪附近のゴキブリ類. Nature Study, 33(3): 31~33
オオゴキブリの産地として臨南寺 (東住吉区); 和歌山県高野山を挙げ, 近畿地方では普通とする. 案外つまらない林にもいるが見つげにくいこ

と；垂直的には平地から 800；高野山では山上付近の針葉樹林にも生息するなど。飼育記録をつける〔1982. 8. 5, 幼虫（奈良公園）1984. 3, 終令幼虫で死〕

- 123) 鴨脚慶夫 (1994) 糺の森の昆虫記. 「糺の森／鴨川」: 51～83 (京都新聞社)
オオゴキブリが糺の森に横たわる湿った朽木の中で見られることにふれる (京都市). 標本写真 (カラー) をつける.
- 124) 井口宗平 (1908) 兵庫県佐用郡産昆虫目録 (承前). 昆虫世界, 12(128): 158～160
オオゴキブリを所産種の一つに挙げる.
- 125) 飯田信三 (1938) 本邦未記録のヒラタカメムシ科 *Aradus unicolor* Kirotchenko
採集記. 昆虫界, 6(51): 482
オオゴキブリの記録を含む. 京都東山の清水山, 1968. 2. 16, 風害で折損したアカマツの切株より.
- 126) 池田久雄 (1956) 広島県産昆虫の数種について. 比婆科学, オオゴキブリが広島市白木山で, 朽木の樹皮下より採集されたことにふれる.
- 127) 池ノ谷和幸・市原真紀・望月則孝 (1983) 静岡市賤機山のオオゴキブリ. 駿河の昆虫, (124): 3631
1983. 4. 13, 8 exs. の採集記録.
- 128) 池崎善博 (1968) 昆虫. 「長崎県の動物」: 183～212 (長崎県理科教育協会)
オオゴキブリの産地として長崎市, 平戸市安満岳を挙げる.
- 129) 池崎善博 (1977) 長崎県産ゴキブリ分布資料 (1). 長崎県生物学会誌, (14): 47～49
オオゴキブリの産地として壱岐白沙八幡神社を挙げる. 1976. 8. 13, 1♀. 他に松浦市上志佐, 平戸市安満岳, 同黒子島などの標本もあると付記 (データなし).
- 130) 池崎善博 (1981) 五島列島産昆虫目録・直翅目. 「五島の生物」: 254～257 (長崎県生物学会)
オオゴキブリの記録を含む. 中通島山王山, 1978. 8. 1, 1♀; 平島, 1978. 1978. 8. 4, 幼虫1 exs.; 若松島・若松神社, 1979. 7. 30, 4 exs.; 奈留島・中通島青方 (蒲田 1977) を付記.
- 131) 池崎善博 (1989) 長崎県の直翅類. 「長崎県の生物」: 215～220 (長崎県生物学会)
オオゴキブリが本土・五・対に分布することにふれる.
- 132) 池崎善博 (1933) 下根緒島一昆虫類・は虫類. 「長崎県の無人島—その自然と生物」: 472 (長崎県自然保護課)
オオゴキブリの記録を含む. 1992. 8. 7, 幼虫.
- 133) 池崎善博 (1995) 平戸の昆虫. 「平戸市史自然・考古編」: 150～169 (長崎県平戸市)
オオゴキブリが安満岳に多産することにふれる. 黒子岳にも分布すると付記.

- 134) 今井初太郎 (1986) オオゴキブリ. インセクトarium, 23(1): 1 および 30 (表紙撮影メモ)
茨城県東茨城郡常北町, 1984. 1. 15, 枯れたマツの樹皮下より.
- 135) . 今井初太郎・広瀬 誠・小管次男 (1980) 茨城県産昆虫目録・直翅目. おけら, (50): 301~303
オオゴキブリを所産種の一つに挙げる.
- 136) 今津小学校 (1956) 今津町を中心とした高島郡昆虫目録. 「自然に親しむために (郷土研究第一集校下自然環境調査)」: 101118 (同校)
オオゴキブリの産地として高島郡新儀を挙げる. 滋賀県.
- 137) 井上尚武 (1993) ゴキブリ目. 「茨城県の昆虫」: 42 (水戸市立博物館)
オオゴキブリの記録を含む. 久慈郡水府村下高倉. 1975. 8. 12, 1 ex.; 笠間市佐白山, 1986. 4. 10, 1♂; 東茨城郡茨城町中石崎, 1982. 2. 13, 幼4.
- 138) 井上徳弥 (1915) タイワンオホコホロギとオホゴキブリ. 台湾博物学会々報, 5(20): 31~32
タイワンオオコホロギと同様に薬用として服用することにする. 内臓を除き, 食塩とブタの脂肪で炒る (腹の張りを愈す). 糞も塩と共に練り, 舌のただれに用いる, など.
- 139) 井上智雄 (1961) 浜松にもオオゴキブリ. 駿河の昆虫, (35): 954
浜松市鴨江町県居神社, 1958. 8. 3, 1♂.
- 140) 石橋達堂 (1993) 日田の昆虫VI直翅目 (バッタ類) 目録. 日田市立博物館々報 (自然史部門), (26): 9~12
オオゴキブリの記録を含む. 日田市大川内山, 1982. 8. 8 (ex. なし).
- 141) 石田昇三 (1981) 由緒正しい森の隠遁生活者オオゴキブリ. 「虫の生活」: 86 (毎日新聞四日市支局)
朽木内で生活するオオゴキブリの解説. 朽木に潜む成虫の生態写真(モノ)をつける. 産地などへの言及はない.
- 142) 石田昇三 (1985) オオゴキブリ. 「みえ昆虫記」: 69 (中日新聞本社)
朽木に住む大型のゴキブリ; 腸に宿す原生動物の助けでセルロースを栄養にすること; 成・幼虫の同居していることが多いこと; 羽化後日の浅い成虫の翅は長い, 日がたつとかじられて短くなること; などにふれる. 朽木に潜む成虫の生態写真をつける.
- 143) 石田昇三ほか 5 名 (1959) 紀北・紀南調査会採集記. ひらくら, 3(25): 4~16
オオゴキブリの記録を含む. 紀伊長嶋町大島, 1958. 11. 16.
- 144) 石原 保 (1947) 日本のゴキブリ類. 科学知識, 27(11): 32~36
オオゴキブリを屋外性のゴキブリの一つとして挙げる. 朽木内・倒木下などで得られ食材性であること, 腸内に共棲する原生動物で繊維素を栄養にしていること, など.
- 145) 石原 保 (1954) 日本産ゴキブリ類概説. 新昆虫, 7(12): 2~8

Panesthiidae カタゴキブリ科としてオオゴキブリ類をとりあげる。オオゴキブリ *Panethia angustipennis* (本・球・台・東洋熱帯地方) とツノオオゴキブリ *P. spadicum* (本・四・九・台・支。四国は新記録と付記) の2種に分け、食材性でセルロースを分解する原生動物が腸管内に共生すること；幼虫は群集性を有することにふれる。検索表での2稿の区別点は前胸背前縁の彎入の差に求めている。図はない。

- 146) 石原 保 (1985) ゴキブリ。「愛媛県百科事典(上)」: 497 (愛媛新聞社)
オオゴキブリ：形態・生息環境のみ。具体的な産地などの記なし。
- 147) 石原 保・宮武睦夫・久松定成・田口英哉・友国雅章・古木芳枝・酒井雅博・木下信一・伊藤 研 (1973) 本四架橋ルート of 島々の昆虫相。「本州四国連絡架橋に伴う周辺地域の自然環境保全のための調査報告書学術調査編」: 153～198 (本州四国連絡橋公団)
淡路島からのオオゴキブリの記録を含む。先山, 1972. 10. 1～5, 2 exs.; 三熊山, 1972. 11. 12～17, 2 exs.
- 148) 石井信弘 (1987) 動物。「富岡市史 自然編, 原始・古代・中世編」: 171～288 (群馬県富岡市)
所産種の一つにオオゴキブリを挙げる。ただし本文中では「この地域にはチャパネゴキブリ, ヤマトゴキブリの2種が見られる」と記し、オオゴキブリを産することにはふれていない。
- 149) 石川 均 (1988) オオゴキブリを静岡市上長尾で確認。駿河の昆虫, (181): 5087
静岡市上長尾白山神社, 1996. 12. 7, 幼2, 本種の確認法として糞の有無が手がかりになることを付記。糞…木屑を固めた状態。扁平な楕円形～長方形, 1.0×0.5cm.
- 150) 石川 均 (1989) 静岡県産ゴキブリ類について。駿河の昆虫, (145): 4165～4175
オオゴキブリの記録を含む。焼津市坂本坂本神社, 1983. 5. 27, 1♂ほか; 志太郡岡部町板取, 1986. 1. 15, 5 幼; 静岡市宮ヶ崎賤機山, 1986. 2. 11, 3 幼; 榛原郡相良町菅谷, 1984. 6. 4, 1♂; 賀茂郡河津町, 1988. 10. 19, 3♀; 磐田郡豊岡村敷地, 1986. 10. 17, 1♀。〈引用〉静岡市 (桐竹1954), 岡部市三輪 (富山1961), 浜松市鴨江 (井上1961), 引佐郡引佐町田畑 (市橋198), 静岡市賤機山 (池ノ谷ほか1983), 袋井市油山寺 (杉本1986)。他に小笠郡大東町小笠山, 高天神山, 熱海市。〈未発表〉伊豆半島各地。標本写真と分布図をつける。
- 151) 「石川の四季と自然」編集委員会 (1988) 平地を覆っていた照葉樹林, 「石川の四季と自然」: 56～57 (石川県自然保護課)
オオゴキブリ：石動山のブナ林にもいるが照葉樹林でときどき見られることにふれる。幼虫のカラー写真 (生体) をつける。
- 152) 礎島恵明 (1973) 東霧島の昆虫。タテハモドキ, (8): 12～115
オオゴキブリの記録を含む。1972. 11. 9, 4 exs. (宮崎県小林市)

- 153) 磯崎恵明 (1974) 宮崎県の直翅類目録. 研究紀要, (2): 31~51 (宮崎県総合博物館)
 オオゴキブリを含む. 県内産地として宮崎市・大島・双石山・加江田・ワニ塚山・青井岳・中霧島・西米良・大崩山を挙げる. 標本写真をつける.
- 154) 磯崎恵明 (1974) 中霧島の昆虫. タテハモドキ, (9): 10~16
 オオゴキブリ: 矢岳下, 1972. 11. 9 (4 exs.); 1973. 3. 9 (3 exs.). 宮崎県西諸県郡高原町.
- 155) 磯崎恵明 (1992) その他の昆虫類. 「宮崎県の生物」: 924~308 (鉾脈社)
 オオゴキブリを所産種の一つに挙げて解説. 生息環境など. 標本写真をつける.
- 156) 磯崎恵明 (1994) 鰐塚山麓 (持田一帯) に棲息する昆虫類の採集記録. タテハモドキ, (30): 107~119
 オオゴキブリの記録を含む. 1972. 4. 29, 1 ex.
- 157) 磯崎恵明 (1994) 宮崎県のゴキブリ目. タテハモドキ, (30): 147~150
 オオゴキブリの既知産地として大島, 矢岳麓鹿野原, 青井岳, 田野原持田, 鰐塚山, 双石山, 加江田溪谷, 宮崎市, 西都市銀境, 西米良村, 市房山, 椎葉村, 大崩山, 高千穂村を挙げ (データなし), スダジイ・アラカシなどの倒木の朽木の皮下, 材部などで採捕されることにふれる.
- 158) 伊藤修四郎・黒子 浩・保田淑郎・永井正身・有田 豊・内藤 彦 (1966) 勝尾寺周辺の昆虫相調査 (墓地公園開発計画資料として). 「箕面勝尾寺附近の生物生態調査報告書」: 15~45 (大阪府企業局)
 オオゴキブリの記録を含む. 1966. 8. 29, 14 exs. (大阪府箕面市)
- 159) 伊藤 智 (2001) 岩手県下におけるオオゴキブリの採集例. 岩手虫乃会々報, (28): 4
 胆沢郡胆沢町防沢, 2000. 8. 21, 1♂. 防沢橋で飛翔中の個体であったとし, 本種の飛翔性にも言及する. 標本写真をつける.
- 160) 伊藤敏仁 (2000) 妙楽寺の森昆虫類の調査. 「平成11年度千葉県自然環境保全地域等変遷調査報告書 (妙楽寺の森郷土環境保全地域)」: 21~31 (千葉県環境生活部自然保護課)
 オオゴキブリの記録を含む. 千葉県長生郡睦沢町妙楽寺の森, 1999. 8. 3, 多数 (林内の倒木より).
- 161) 伊藤年一ほか (1996) ごきぶりのなかま. 「ふしぎ・びっくりこども図鑑 むし」: 104 (学習研究社)
 オオゴキブリの標本写真 (カラー) と略解 (樹皮や朽木中に住む) を含む.
- 162) 伊藤喜彦・大場義之・高柳久和 (1990) 動物. 「御津町史本文編」: 1001~1030, 2 pls. (愛知県自然保護課)
 オオゴキブリの産地として御津山を挙げる (データなし).
- 163) 岩崎利夫 (1976) 岩国市の動物(10)昆虫, 「科学センター誌・岩国の自然」: 204~

208 (岩国市科学センター)

オオゴキブリを所産種の一つに挙げる。データなし。

- 164) 井崎市左衛門 (1932) ゴキブリ科. 「福井県の昆虫」: 65 (井崎器械標本店)
オオゴキブリを所産種の一つに挙げる。
- 165) 伊豆原栄二ほか (1984) ゴキブリのふるさと. 「愛知県の自然をたずねて (春日井・瀬戸周辺)」: 39 (愛知県自然保護課)
オオゴキブリが定光寺の山中で見られることにふれる。標本写真 (モノクロ) をつける。
- 166) 鹿児島県立博物館 (1983) 鹿児島県内博物館等自然史部門所蔵資料集. 鹿児島県立博物館研究報告, (2): 1~89
オオゴキブリの標本データ: 川内市高城町, 1971. 9. 19.
- 167) 鹿児島高等農林博物同志会 (1927) 大島昆虫陳列目録: 1~12 (同会)
オオゴキブリ (*P. angustipennis*) を含む。データなし。奄美大島。
- 168) 上田常一 (1965) 南方系の昆虫. 「隠岐の動物」: 49~56 (園山書房)
ツノオオゴキブリ: 隠岐では珍しくないほど分布していることにふれる。
- 169) 神谷寛之 (1965) 青葉山の採集品から, 生物研究, 9(3/4): 39~40
オオゴキブリの記録を含む。福井県大飯郡高浜町青葉山, 1965. 7. 27~28, 2 exs.
- 170) 神谷一男・宮坂邦典 (1938) 東京農業大学昆虫研究室所蔵昆虫目録第一報 (直翅目). 科学の農業, 18(2~4): 60~30
オオゴキブリとツノオオゴキブリの標本記録を含む。オオゴキブリ: 清澄山, 1934. 11. 3, 1♀; 城山 (東京), 1935. 5, 3♂, 2♀, 5幼; 大台ヶ原山, 1935. 7. 19, 1幼。ツノオオゴキブリ: 四国, 1926. 8. 4, 1♀ (明石哲三採)。
- 171) 神谷一男・田中亮三 (1965) 天竜川流域の昆虫相—水棲昆虫を含む. 「天竜・奥三河自然公園調査報告」: 217~236 (愛知県・長野県・静岡県天竜・奥三河国定公園指定促進期成同盟会)
オオゴキブリの産地として水窪~横山, 光明山などを挙げる。
- 172) 神谷一男・田中亮三 (1965) 天竜川流域の特殊昆虫. 「天竜・奥三河自然公園調査報告」: 63~64 (同前)
オオゴキブリが天竜川の暖地に生息することにふれる。標本写真をつける。
- 173) 菅 晃 (1992) 日本の昆虫の王様たち11 オオゴキブリ. 愛媛の自然, 34(3): 14
成虫の標本写真と解説。生息環境 (県下平地~低山, 社寺林や河川堤防林中のマツ・サクラ・クヌギなどの朽木中), 形態 (新成虫は4枚の翅がそろっているが冬になるとすり切れて, つけ根にしか残っていないこと), 自然分解者としての役割など。
- 174) 荻部治紀・新津修平・松本慶一・荻部幸世・高桑正敏・藤田 裕 (1999) 愛川町の昆虫. 「愛川町の動物 (愛川町郷土博物館展示基礎調査会報告書第8

- 集)」：23～89（愛川町教育委員会）
 オオゴキブリの記録を含む．神奈川県愛甲郡愛川町高取山，1994. 12. 18，
 4 exs.；同町三増，1996. 3. 5，5 exs.
- 175) Karny, H. (1915) H. Sauter's Formosan Ausbeute Orthoptera et Oothecaria, Suppl. Entomol. 4: 56～108
 オオゴキブリ類の3種を記録. *Panesthia saussurei* Stål, *P. angustipennis* Illig., *P. incerta* Br. v. w. (p. 90～91).
- 176) 加藤敦史 (1999) 国営飛鳥歴史公園甘檜丘地区の昆虫相 3. ゴキブリ目 Biattaria, 紀伊半島の野生動物, (5): 12～14
 オオゴキブリの記録を含む．奈良県高市郡明日香村，1997. 8. 18，1 ex.,
 クヌギ樹幹の腐朽部より．標本写真（モノ）をつける．
- 177) 加藤正世 (1932) オオゴキブリ・ツノオオゴキブリ. 「分類原色日本昆虫図鑑1」:
 16. pl. 7 (厚生閣)
 オオゴキブリ：学名 *Panesthia angustipennis*. 分布（本・四・九・琉・
 台・支・印），生息環境（山地の樹皮下・朽木等に発見されるも稀）など.
 ツノオオゴキブリ：学名 *P. spadica* Shiraki. 分布（本・台・支・印），
 生息環境（朽木に住す）など．標本写真（カラー）をつける．
- 178) 加藤正世 (1938) 武蔵野昆虫誌. 東京緑地計画調査彙報, (11): 1～194, 6 pls.
 (東京府)
 オオゴキブリを所産種の一つに挙げる．データなし．
- 179) 桂 孝次郎・川中陽平・白川博之・山城康司・奥田洋子・村上希代子 (1973) 蒜山
 (岡山県) の昆虫類. 「蒜山の生物調査報告」: 109～173, 2 pls. (追手門
 学院大学生物学研究会)
 オオゴキブリの記録を含む．岡山県真庭郡湯原町祝詞，1972. 7. 22, 1 ex.；
 湯原学院所有地，1972. 7. 30, 1 ex.
- 180) 桂 孝次郎・白川博之 (1973) 蒜山(岡山県) の昆虫類の特記すべき種. 「蒜山の
 生物調査報告」: 175～178 (追手門学院大学生物学研究会)
 オオゴキブリの産地として湯原湖周辺(湯原学院所有地・祝詞) を挙げ，
 蒜山盆地よりいく分暖いこと，照葉樹がわずかながら見られること，など
 にふれる．
- 181) 河 晴彦 (1937) 郷土の直翅目目録 (1). 昆虫と植物, 1(1): 13～16
 オオゴキブリが小浜中学校の標本中にあることにふれる．福井県小浜市.
- 182) 河上三郎 (1950) ツノオオゴキブリ. 新昆虫, 3(10): 316
 島根県那賀郡三隅町みほみすみ駅附近の山，1949. 8. 22.
- 183) 河北 均 (1984) 朝熊山の直翅類. 「朝熊山の自然」: 22～24 (伊勢の自然を勉強
 する会)
 オオゴキブリを所産種の一つに挙げ，成虫，幼虫が周年見られることにふ
 れる (伊勢市朝熊山).

- 184) 河北均・乙部 宏 (1989) 屋久島 7 月の直翅類の記録. 月刊むし, (224): 28~29
オオゴキブリの記録を含む, 上屋久町白谷, 1989. 7. 17, 1 幼; 屋久町安房,
1989. 7. 18, 1 ex.
- 185) 川名 興 (1985) 清澄観察会メモ. 冬虫夏草, (24): 52~53
オオゴキブリの記録を含む. 千葉県君津市: 東大宿舎~郷台, 1985. 8. 23
(ex. なし).
- 186) 河野 誠 (1998) 平成10年度千石峡自然観査会 (岩石・植物・昆虫・野鳥) 後記,
筑豊博物, (3): 39~41
オオゴキブリの記録を含む. 福岡県鞍手郡宮田町千石峡, 1998. 8. 20 (ex.
なし)
- 187) 河野仁一郎 (1966) 県北の昆虫. 1. 阿波の自然, (8): 28~40
オオゴキブリの記録を含む. 徳島県美馬郡脇町清水 (一本杉), 1963. 8. 6,
1♂, 1♀
- 188) 川沢哲夫 (1995) 土佐清水市の昆虫. 土佐の自然, (68): 15~16
オオゴキブリが朽木中に群棲することによる. 生態写真 (カラー) をつ
ける.
- 189) 川沢哲夫 (2000) 横倉山の昆虫と洞窟動物. 土佐の自然, (83): 9~12
所産種の一つにオオゴキブリを挙げる. 高岡郡越知町.
- 190) 京浜昆虫同好会 (1971) 城山. 「新しい昆虫採集案内 (II) 西日本採集地案内編」:
238~239 (内田老鶴園新社)
城山のスダジイなどの朽木にオオゴキブリが多いことにふれる (鹿児島市).
- 191) 建設省九州地方建設局川辺工事事務所 (2000) 陸上昆虫類の確認種 (文献・現地調
査). 「川辺川ダム事業における環境保全への取り組み (付表 4. 4)」: 21~
64 (同事務所)
事業区 (熊本県球磨郡五木村・相良村) での現地調査でオオゴキブリが確
認されていることにふれる.
- 192) 菊尾奈良義 (1990) オオゴキブリ——腐り始めた枯れ木を探してごらん. 「子ども
たちの森」: 16~17 (白水社)
棲息環境, 探し方などの概要.
- 193) 木村康信 (1939) 「隠岐黒木村ニ分布セル動物植物目録」: 1~23 (自刊)
オオゴキブリが美田小学校の裏山で採集されていることにふれる. 隠岐諸
島西ノ島.
- 194) 木村康信 (1942) 隠岐の動物. 隠岐教育, (18): 12
ツノオオゴキブリを所産種の一つに挙げ, 主として山地に見られると付記.
- 195) 吉良 淳 (1935) 霧島山の昆虫 (天牛類・鍬形類以外の主要な昆虫). 自然と趣味,
6(1): 44~45
オオゴキブリの記録を含む. 霧島山 (鹿児島県始良郡霧島町, 1935. 7. 23~26.
- 196) 桐竹陸好 (1954) 静岡市のオオゴキブリ. 駿河の昆虫, (7): 154

- 静岡市石部（自宅），1954. 8. 28, 1 ex.（灯火に飛来したと思われる個体）。
- 197) 岸井 尚・塚本圭一・井上宗二（1960）高知県宿毛市沖ノ島昆虫相. 第15回日本生物教育会全国大会（高知）研究発表要旨：B1～24
1960. 7. 23～8. 8 の調査でオオゴキブリが得られたことにふれる。
- 198) 清末忠人（1984）ゴキブリ. 「鳥取県大百科事典」：314（新日本海新聞社）
オオゴキブリが照葉樹林で見られることにふれる。
- 199) 小林正明（1991）ゴキブリ. 「長野県自然観察事典（動物編）」：104～107（長野県自然教育研究会）
オオゴキブリを含む. 下伊那郡天竜村，1987. 8. 23（伊原道夫採）. 標本写真をつける。
- 200) 児玉重行（1989）宮崎県北部に分布する甲虫類. タテハモドキ，(24)：23～25
オオゴキブリの記録を含む. 延岡市高平山，1988. 4. 10, 6 exs.
- 201) 米谷 一・荒木平八郎・後藤大介・石松達堂（1982）大川内山自然林を中心とした昆虫. 「大川内山の自然調査報告書」：51～71（大川内山自然調査会）
オオゴキブリの記録を含む. 大分県日田市大川内山，1981. 7. 4（ex. のデータなし）。
- 202) 小森省作（1904）第一回岐阜県昆虫分布調査（七）. 昆虫世界，8(82)：225～229
オオゴキブリ *Panesthia angustipennis* が恵那，益田2郡にて朽木中より獲られたりと記す。
- 203) 近藤光宏（1991）由加山系南東部地域の昆虫〔ゴキブリ目・カマキリ目・直翅目・半翅目・脈翅目・双翅目・膜翅目〕. 「倉敷市由加山系の自然—南東部地域（特にC地区）」：115～120（倉敷の自然をまもる会）
オオゴキブリの記録を含む. 由加C地区，1991. 1. 26, 1♀，標本写真をつける. 県下での既知産地（敷市，高梁市，上房郡，阿哲郡，真庭郡）にもふれる。
- 204) 小阪敏和（1986）オオゴキブリとウマノオバチの記録，広島虫の会々報，(25)：57
オオゴキブリ：広島市南区，似島，1986. 9. 15, 1 ex.；兄宇品，1986. 4. 20, 6 exs.（ウバメガシ枯木）；佐伯郡：宮島，1976. 9. 1, 1 ex.；1978. 7. 16, 1 ex.；1978. 8. 27, 1 ex.（モミの枯木に普通）. 枯木の直径は30cm以上を必要，1年を通じて幼，成虫見られることにふれる。
- 205) 小菅次男（1973）オオゴキブリ. 「第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書（昆虫類）茨城県」：113（環境庁）
産地として笠間市片庭片庭八幡社（現認），西茨城郡岩瀬町富谷山（文献），筑波郡筑波町筑波山（現認）を挙げる. 環境の現状にもふれる。
- 206) 口木文彦（1992）オオゴキブリの記録. 佐賀の昆虫，(26)：373
小城郡小城町寺浦（果樹試験場内），1988. 8. 7, 1 ex.（メラノキシロンアカシアの枯死部で）；東彼杵郡東彼杵町口木田郷，1980～1985, 成・幼10数 exs.（ミカン園内のヤマモモ早木の樹洞）。

- 207) 熊本日々新聞情報センター (1995) ゴキブリの仲間. 「くまもと自然大百科」: 405 (熊本日々新聞社)
オオゴキブリの原色図と解説を含む. 学名 *Panesthia angustipennis spadica* (Shiraki). 分布 (本州以南日本各地), 形態, 生息環境 (五家荘など自然林のある林内の朽木中, 幼・成虫共朽木の木質部を餌にする), など.
- 208) 倉敷昆虫同好会 (1988) オオゴキブリ. 「岡山の昆虫」: 116 (山陽新聞)
高梁市で撮影 (1986. 2. 20) の成虫と哲多町で撮影 (1987. 2. 2) した幼虫のカラー写真. 県下での産地として倉敷市, 高梁市, 上房郡, 阿哲郡, 真庭郡 (湯原湖付近) を挙げる. その他分布, 生息環境, 食性などにふれる.
- 209) 黒木良一郎 (1934) 昆虫雑録. 郷土博物時報, (5): 6~9
ツノオオゴキブリの産地として屋久島を挙げる.
- 210) 黒沢良彦 (1973) オオゴキブリ科. 「講談社学習大図鑑 2. 昆虫百科図鑑 II. 甲虫・トンボほか」: 225, pl. 96 (講談社)
オオゴキブリを *Panesthia spadica* の学名で解説. 形態, 環境 (朽木中, 消化管にセルロース消化菌が共生), 分布 (本・四・九・屋), など. 九州と南西諸島にはよく似た別属の種がいてと付記. 標本写真 (カラー) をつける.
- 211) 黒沢良彦・浜野栄次 (1982) オオゴキブリ. 「講談社ことも学習百科. 15. こん虫の図鑑」: 98 (講談社)
標本写真 (カラー) と略解. 朽木の中にいることなど.
- 212) 黒沢良彦・友国雅章・水戸豊野 (1979) オオゴキブリ 「カラー版昆虫大百科」: 300, 302 (ケイブンシャ)
成虫の原色図と幼虫の生態写真 (カラー) を含む. 分布を本・四・九・屋とする.
- 213) 黒沢良彦・浜野栄次・永井昭三 (1985) カマキリ・ナナフシ・トビナナフシ・ガロアムシ・ゴキブリのなかま. 「セルフスタディ方式こどもカラー図鑑 2, こんちゅう」: 105~106 (講談社)
オオゴキブリの標本写真 (カラー) と略解を含む.
- 214) 黒沢良彦・友国雅章・永戸豊野 (1989) ゴキブリ目. 「カラー版昆虫大百科 (ロングセレクトシリーズ①)」: 292, 294 (勁文社)
オオゴキブリ成虫の原色図と略解 (形態, 生息環境, 分布など) を含む.
- 215) 黒沢良彦ほか (1966) ゴキブリのなかま. 「科学図鑑 2. 昆虫 I」: 59 (世界文化社)
オオゴキブリのモノクロ写真を含む.
- 216) 草刈広一・波多野良次 (1993) 西川町・朝日村の昆虫. ファウナ・ウキタム, (25): 170~184
オオゴキブリの記録を含む. 山形県西村山郡西川町荒沢, 1992. 8. 24~25,

- 1 ex., 幼1; 1992. 9. 8, 幼2 (共にブナ立枯より).
- 217) 楠井善久 (1984) 佐渡島ゴキブリ2種の記録. 越佐昆虫同好会々報, (58): 2
オオゴキブリ: 小木町小比叡, 1982. 6. 20, 幼2.
- 218) 楠井善久 (1992) 熊毛諸島 (鹿児島県) のゴキブリ類. 長崎県生物学会誌, (41): 77~80
オオゴキブリ: 屋久島宮の浦, 1992. 7. 22, 1♂; 平内, 1992. 7. 23, 4♂, 1♀ (標本写真をつける).
- 219) 楠井善久 (1996) 島山島の昆虫事情 (五島列島). こがねむし, (58): 21~25
朽木中よりオオゴキブリが得られたことにふれる. 1995. 8. 4, 標本写真(モノクロ)をつける.
- 220) 楠 博幸 (1987) 松山市付近における1月の自然観察. 蝶と花, (12): 21~28
オオゴキブリの記録を含む. 末町, 1986. 1. 30 (湧ヶ淵自然公園, 尾根筋のマツクイムシ被害木より). 図をつける.
- 221) 楠 博幸 (1994) 杉立の自然. 蝶と花, (38): 1~45, 1 map
オオゴキブリの記録を含む. 松山市杉立町, 1990. 3. 30, 1♀ (松枯木中にひそむ).
- 222) 楠博幸 (1994) 石手川ダム周辺地域の自然. 蝶と花, (39): 1~33, 1 map
オオゴキブリの記録を含む. 松山市石手川ダム付近, 1994. 5. 6, 1♀ (朽木中に住む).
- 223) 楠 博幸・武智彦彦 (1958) 忽那七島の昆虫Ⅱ 津和地・二神第二回調査報告. あげは, (5): 54~62
オオゴキブリが津和地島 (愛媛県温泉郡中島町) で見られることにふれる.
- 224) 桑田健吾 (1996) オオゴキブリ向原町奥谷で採集. 比婆科学, (174): 69
高田郡向原町奥谷, 1995. 11. 18, 1♂ (分布を山形以南とする).
- 225) 前川雅雄 (1935) 高野山にて獲たる珍種に就て. 関西昆虫学会々報, (6): 73
不動坂の路上でオオゴキブリを得た記録を含む. 1953. 8. 19. 和歌山県伊都郡高野町.
- 226) 前川弥之祐 (1949) オホゴキブリ. 観察, 2(5): 126~127
岐阜市金華山での採集記録. 1949. 8. 9, 数頭.
- 227) 丸毛信勝 (1927) つのおほごきぶり. 「日本動物図鑑」: 889 (北隆館)
Paesthia javanica Serville の学名で解説 (形態・分布: 本・支・印). 全形図をつける.
- 228) 的場孝郎 (1959) 鈴島でもオオゴキブリ. ひらくら, 3(26): 26
紀伊長島町鈴島, 1959. 3. 7, 1 ex. (松林の倒木内より).
- 229) 的場 績 (1990) 和歌山県のゴキブリ. 和歌山県立自然博物館だより, 8(2): 6
オオゴキブリ: 県下全域に広く分布. 生態にもふれる.
- 230) 的場 績 (1995) 春日の森の昆虫. 「和歌山県海南市春日の森調査報告書」: 100~123 (海南市教育委員会)

オオゴキブリの記録を含む。1994. 4. 15, 1 ex. (目撃); 1994. 4. 29, 1ex. (目撃)。

- 231) 松枝 章 (1970) 昆虫類, 「七尾市史資料編第四巻 (動物)」: 188~209 (七尾市役所)
オオゴキブリが石動山山頂部のブナ腐朽木内で得られたことにふれる。
- 232) 松枝 章 (1976) 昆虫類・直翅目, 「珠洲市史 第一巻資料編 自然・考古・古代」: 352~353 (石川県珠洲市役所)
オオゴキブリが珠洲市山伏山のシイの倒木より発見されていることにふれる。
- 233) 松本忠夫 (1989) ヨロイモグラゴキブリの亜社会性生活, インセクトリウム, 26(5): 136~144
オオゴキブリ亜科, オオゴキブリ族の世界的な分布を扱い, 日本のオオゴキブリ亜科 (オオゴキブリ・タイワンクチキゴキブリ・エサキクチキゴキブリ) にもふれる。写真をつける。
- 234) 松本忠夫 (1996) 食性ゴキブリの親子関係, 昆虫と自然, 31(11): 26~29
オオゴキブリ, タイワンクチキゴキブリ, エサキクチキゴキブリ (以上南西諸島, *Salgonea gressiti*, *S. raggei* (台湾) を扱う。東大院生の前川清人が5種のゴキブリをミトコンドリア DNA 分析で検討。種, 亜種レベルの系統関係と地理的分布とが見事に一致することを明らかにしたことにふれる。オオゴキブリはふ化後の幼虫, 分散, 親子関係はきしない。タイワンクチキゴキブリはふ化幼虫白色 (写真), ♀早共幼虫の傍にいて親虫が口から餌を与えることもあること, ♀早は飛翔で分散, 朽木に到達後, 翅を食い合ってこれを失うこと (エサキクチキは短翅のため食い合いはない), などにふれる。
- 235) 松村松年 (1898) 直翅目 Orthoptera, 「日本昆虫分類学」: 44~52 (裳華書房)
オオゴキブリをおほあぶらむしなる和名, *Penesthia angustipennis* なる学名で収録。黒色ナル大形種ナリと付記。
- 236) 松村松年 (1904) おほごきぶり *Penesthia angustipennis* Illig, 「日本千蟲図解 第一巻」: 108, pl. 2 (警醒社書店)
形態について記載するほか, 野外に住スレドモ余り多カラズと解説。♂の全形図をつける。
- 237) 松村松年 (1907) 蜚蠊科, 「昆虫分類学 (上)」: 66~68 (警醒社書店)
おほごきぶり *Penesthia angustipennis* Illig の簡単な形態解説と凸版図 (原図として) を含む。
- 238) 松村松年 (1913) たいわんおほごきぶり・つのおほごきぶり, 「新日本千蟲図解 之壺」: 16~17, pl. 2 (警醒社書店)
タイワンオオゴキブリ *Penesthia morio* Burm. : 形態的特徴と分布 (本・台), 本州及び台湾ニ産スレドモ稀ナリ, と付記

- ツノオオゴキブリ *P. javanica* Serv. : 形態上の特徴と分布 (本・支・印). 播州地方ニテ捕獲セシモノナルガ其数多カラズ, と付記. それぞれの♀の図をつける.
- 239) 松村松年 (1931) オホゴキブリ・ツノオホゴキブリ・タイワンオホゴキブリ. 「日本昆虫大図鑑: 1376~1377, 1379 (刀江書院)
- オオゴキブリ *Panesthia angustipennis* (本・四・九・支・印), ツノオオゴキブリ *P. spadica* Shir (本・支・印), タイワンオオゴキブリ *Salganea morio* Burm. (本・九・台) の3種に分けて解説 (形態・分布など). それぞれに全形図をつける. 産出状況については, オオ: 野外に住し, 掃溜にて捕獲し得べしと雖も, 余り多からず. ツノ: 中国地方に産すれども稀なり. タイワン: 本・九・に産すれども稀なり.
- 240) 松村松年 (1933) ツノオホゴキブリ・オホゴキブリ. 「日本通俗昆虫図説5」: 22~23, 英32~33, pl. 6 (春陽堂)
- Panesthia angustipennis* (オオゴキブリ), *P. spadica* (ツノオオゴキブリ) の学名で解説. 分布はオオ: 本・四・九・支・印, ツノ: 本・支・印, (中国地方に産すれど少し. オオ, ツノとも♀の原色図をつける.
- 241) 松野武雄・唐牛良明・近藤 格・斎藤光夫・須磨靖彦・斎藤和夫 (1966) 十二湖 (青森県) のオオゴキブリ. 東北昆虫, (4): 1~2
- ブナの朽木より得られたオオゴキブリの記録. 青森県西津軽郡岩崎村十二湖見晴台付近, 1964. 8. 2, 1♀; 同, 十二湖落口の池付近, 1965. 5. 3, 1♂, 1♀, 幼虫 8 exs.; 1965. 6. 1, 1♂, 2♀, 幼虫 6 exs.; 1965. 8. 15, 6♂, 7♀, 幼虫 52 exs. オオゴキブリが得られたブナ立枯木の写真をつける.
- 242) 松山基範ほか (1956) 「山口県の特産生物」: 1~48 (山口県文教課)
- オオゴキブリの産地として阿武郡田万川町小川と玖珂郡美川町を挙げる
- 243) 松崎有光 (1981) 福島県いわき市産蝶類最近の知見. ちょうちょう, 4(5): 43~53
- オオゴキブリの記録を付記. いわき市小川町江田. 標本写真をつける.
- 244) 松沢 寛・甲斐重徳・日高輝展 (1954) 青島近郊の重要昆虫. 「青島総合調査報告書」: 162~165 (宮崎リンネ会)
- オオゴキブリを所産種の一つに挙げる. 大島 (南那珂郡大島) 産の写真を付ける.
- 245) 松沢 寛・岡本秀俊・日高輝展・甲斐重徳 (1952) 檳榔島昆虫採集調査行. 採集と飼育, 14(9): 268~273
- オオゴキブリの記録を含む. 鹿児島県曾於郡志布志町檳榔島, 1951. 8. 13.
- 246) 明治大学理科連合植物保護研究部 (1969) 夏季合宿. 屋久島学術調査報告 (IX) 昆虫調査報告. 明大理科連合植物保護研究部々報, (12): 84~97
- オオゴキブリが得られたことにふれる. 詳しいデータはない.
- 247) 道端久正 (1937) 昆虫之部. 「越前国南條郡乃植物と昆虫」: 1~38+12 (自刊)

所産種の一つにオオゴキブリを挙げる。データはない。

- 248) 三木将義 (1992) 高知県でオオゴキブリを採集。月刊むし, (261): 38
室戸崎山, 1992. 5. 28, 1♂ (ゴミ・オサ用のトラップで)。標本写真をつける。
- 249) 南 尊演 (2000) 林苑および周辺の動物(2) 昆虫類, 「近江の鎮守の森——歴史と自然 (近江植物同好会編)」: 86~88 (サンライズ出版)
オオゴキブリが生息することにふれる (滋賀県大津市近江神宮)。
- 250) 峰 正隆 (1991) 昆虫類 (その 1), 「上山公園生態系基本調査報告書: 101~110 (上山公園生態系基本調査団)
オオゴキブリが諫早市上山で見られることにふれる。
- 251) 三罪輝久 (1988) ゴキブリ目, 「山口県の昆虫」: 16, 65 (県立山口博物館)
オオゴキブリが県内に普通, 朽木中で成・幼とも越冬することにふれる。
- 252) 宮下義貫 (1931) 埴科郡産直翅系昆虫目録追補。信濃教育, (534): 1~3
ツノゴキブリ *Panestia javanica* を所産種に挙げる。埴科郡内の平地に見られ, 更級郡にもかなり多いことにふれる。
- 253) 宮田 彬 (1979) 昆虫に寄生する原生動物について I. *Pulex*, (62): 268~269
オオゴキブリに寄生するものを扱う。オオゴキブリは長崎県岩屋山産 (池崎善博採), 他に Kidder (1937: 岐阜), 山崎正武 (1939: 滋賀県大津市) などの論文での産地にもふれる。
- 254) 宮田 彬 (1986) オオゴキブリ寄生のグレガリンについて。北九州の昆虫, 33(3): 160
大分県直川村産, 1985. 秋採。セルロース消化を助けると考えられる絨毛虫が全くおらずグレガリン *Gamocystis*? のみ発見された (n. sp.) ことなど。
- 255) 宮武頼夫 (1996) 青木浩昆虫コレクション 目録, 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録, 28): 1~132
オオゴキブリの標本データを含む。鳥取市, 1950. 8. 14, 1♂ ほか 1952~1974 の 3♂, 1♀, 幼2; 鳥取県気高郡青谷町露谷, 1932. 7. 16, 1♀ ほか 1933~1981 の採集標本 6♂, 3♀, 3幼。
- 256) 宮崎武夫・池崎善博 (1970) 黒子の昆虫。平戸島生物研究会々報, (9): 54
オオゴキブリの記録を含む。1970. 1. 18 (ex. なし)。
- 257) 宮崎県総合博物館 (1986) 直翅目, 「宮崎県総合博物館収蔵資料目録 (動物・地質編)」: 22~23 (同館)
オオゴキブリ: 西米良, 加江田産 2 exs. を含む。
- 258) 宮沢康一郎 (1937) 「県南産昆虫目録 (博物郷土資料昆虫目録)」: 1~44 (関中博物同好会)
オオゴキブリに? を付してリストに含め, 稀と付記。データはない。岩手県。

- 259) 宮沢 豊 (1989) 下伊那の野生ゴキブリ. 下伊那の昆虫, (1): 11~12
オオゴキブリ: 天竜村中井待, 1987. 8. 23, 1 ex. 成虫の標本写真 (モノクロ) をつける. 立ち枯のアカマツ樹皮下にいるらしい, と付記.
- 260) 三好和雄 (1963) 岩国昆虫採集記. 山口県の自然, (8): 16~18
オオゴキブリの記録を含む. 岩国市城山, 1962. 7. 28 (ex. なし).
- 261) 三好和雄 (1966) 大島における昆虫採集記録. 山口県の自然, (16): 3437
オオゴキブリの記録を含む. 大島 (神領~志度石神社), 1966. 7. 27, 倒木より多数.
- 262) 三好和雄 (1973) 昆虫類. 「山口の生物」: 60~76 (山口県生物教育研究会)
オオゴキブリが県内各地に見られることにふれる.
- 263) 三好和雄 (1973) 油谷町昆虫採集記録. 山口県の自然, 3(10): 26~28
オオゴキブリの記録を含む. 山口県大津郡油谷町人丸神社付近の寺の境内, 1973. 8. 5.
- 264) 三好和雄 (1975) 美和町の昆虫相について (その一). 山口県の自然, 4(3): 22~35
オオゴキブリを所産種の一つに挙げる. 1971~に採集されたとあるが, データはない. 山口県玖珂郡美和町.
- 265) 三好和雄 (1994) 「光市産昆虫目録」: 1~82+5 (自刊)
オオゴキブリを所産種の一つに挙げる. 山口県光市.
- 266) 水野丈夫・矢島 稔ほか (1990) ごきぶりのなかま. 「ふしぎがわかるしぜん図鑑 こんちゅう」: 106 (フレーベル館)
オオゴキブリの標本写真 (カラー) と略解を含む. 活動期 (春~秋), 体長 (約40mm), 生活場所 (森や林) など.
- 267) 桃下 大 (1991) 昆虫類 (その3). 「上山公園生態系基本調査報告書」: 128~136 (同調査団)
オオゴキブリが諫早市上山で得られていることにふれる.
- 268) 森 秀雄 (1932) 九州産未知の昆虫二種. *Mushi*, 5(2): 111
オオゴキブリの記録を含む. 福岡県筑紫郡南畑村市ノ瀬, 1932. 9. 23, 1 ex.
- 269) 森 展一・晴気浩明 (1975) 壱岐で採集した昆虫第一報. 佐賀の昆虫, (5): 1~6
オオゴキブリの記録を含む. 郷ノ浦町岳の辻, 1975. 8. 15-16, 1 ex.
- 270) 森川国康・矢野昭三・名川和男 (1965) 篠山の動物. 「県立自然公園篠山の自然」: 8~15 (愛媛大学学術探検部)
オオゴキブリ (1♀) が, 表参道 450m 付近で採集されていることにふれる.
- 271) 森本 桂 (1958) 九州の昆虫 (四). 「九州の昆虫・採集案内」: 口絵 4 (陸水社)
オオゴキブリの標本写真 (モノクロ) を含む.
- 272) 村井俊郎・川北 均 (1982) 尾鷲地域の直翅類相. 「尾鷲地域野生生物調査報告書」: 385~407 (尾鷲地域野生生物調査会・三重県自然科学研究会)
オオゴキブリの記録を含む. 九木崎, 1980. 7. 25; 九木, 1979. 12. 23. 幼

- 虫を含む；九木神社，1979.11.4，幼虫；1979.12.11，三重県尾鷲市。
- 273) 村上博之 (1988) オオゴキブリ，「広島市の動植物」：173，pl. 10 (広島市教育委員会)
- Panesthia spadica* Shiraki の学名で解説。広島市：南区元宇品，ウバメガシなどの倒木中より；南区仏島 (今回の調査で確認)。元宇品では公園内の倒木・朽木が整理除去され，生息場所が狭まっていることにふれる。県内の他の産地付記。モノクロ写真をつける。pl. 成虫の生態写真 (朽木中)。
- 274) 村越三千男 (1950) おほごきぶり・つのおほごきぶり，「集成昆虫図鑑」：366～367 (河野書店)
- Panesthia angustipennis* (オオゴキブリ)，*P. spadica* (ツノオオゴキブリ) の学名で解説。それぞれ形態・分布などにふれ。全形図をつける (♀)。記載・図とも同定の用に耐えられるものではない。
- 275) 村田正利 (1992) 椿山 (茨木市)・大阪のトンボとその他の昆虫，インセクトパル情報ニュース，(33)：5
- オオゴキブリが茨木市椿山で見られることにふれる。大阪府。
- 276) 室川右京ほか (1969) 白山神社々叢と能生姫春蟬発生地，「能生町文化財案内」：10～11 (能生町文化財保護委員会)
- タイワンオオゴキブリが産することにふれる (オオゴキブリのことであろう)。
- 277) 武蔵工大付属高・中学生物部 (1969) 高尾山の蝶・昆虫，「高尾山麓学術調査中間報告」：4～13 (同部)
- オオゴキブリの記録を含む。1969.8.，1 ex. 東京都八王子市。
- 278) 永幡喜之 (1993) よいこのおしょうがつ——親元離れた虫屋の実態，因幡のむし，(28)：43～45
- オオゴキブリの記録にふれる。兵庫県城崎郡浜坂町田井の山，1993.1.9.
- 279) 長崎北陽台高校生物部 (1991) 野崎島昆虫相調査報告，むしめがね，(11)：76～81
- オオゴキブリを五島列島野崎島から記録。データなし。
- 280) 長崎久美子・東郷和宏・吉田知浩・宮副直安・井手麻子 (1984) 加唐島昆虫採集目録，なぎ，(17)：35～48
- オオゴキブリの記録を含む。1982.7.21. 馬渡島での記録があることにもふれる。
- 281) 長島義介 (1981) オオゴキブリ，「新潟県昆虫図鑑 (上)」：294 (新潟日報事業社)
- 成虫の生態写真 (カラー) と分布・形態・生態などの略解。地名なし。
- 282) 長島義介 (1988) 佐渡島の直翅類について，新潟青陵女子短大研究報告，(18)：17～126
- オオゴキブリ：佐渡郡小木町，1982.6.20，2 exs. (幼虫)。

- 283) 中田昭吾 (1976) 1970年度夏期ヒドラ会大採集会・昆虫採集目録, ヒドラ会々報, 9(1): 6~8
オオゴキブリの記録を含む, 愛媛県越智郡大三島, 1970. 8. 1~3 (ex. なし).
- 284) 仲井啓郎 (1977) 竹田川の昆虫, ひかみ, (7): 104~109
オオゴキブリを所産種の一つに挙げる, 兵庫県氷上郡.
- 285) 中島三夫 (1979) 御許山とその周辺の昆虫, 「大分県自然環境保全地域候補地調査報告書 (県北地区)」: 31・47 (大分県環境保健部)
オオゴキブリの産地として御許山を挙げる, 大分県宇佐市~速見郡山香町
- 286) 中島 茂ほか (1973) 中霧島の動物, 「中霧島有料道路計画に関する学術調査報告書」: 51~91 (宮崎大学)
オオゴキブリの産地として鹿野原を挙げる, データなし.
- 287) 中村修美 (1993) 自然史百科「森のムシ・ゴキブリ」への追記, 自然史だより, (18): 4~5 (埼玉県立自然史博物館)
オオゴキブリの形態と生息環境などの概要, 関東地方での分布状況など (埼玉では未知とする).
- 288) 中村誠喜 (1975) 石川県産直翅目, とっくりばち, (28/29): 1~8
オオゴキブリの産地として羽咋 (徳本), 石動山 (松枝) を挙げる.
- 289) 中根猛彦ほか (1971) オオゴキブリ, 「原色ワイド図鑑 2. 昆虫Ⅱ」: 111, 180 (学習研究社)
樹皮下や朽木に住み, 木質部を食べる野外性のゴキブリとして解説, 分布は中部以南の本・四・九とする, カラー写真をつける.
- 290) 中野善敏 (1991) 1990年採集記録, いよにす, (7): 35~42
オオゴキブリの記録を含む, 愛媛県南宇和郡西海町鹿島, 1990. 7. 14, 1 ex.
- 291) 中武雅周 (1954) 市房山に虫を探ねて, 新昆虫, (79): 29~31
オオゴキブリが3~5合目で見られることにふれる (宮崎県児湯郡西米良村)
- 292) 中山紘一 (2000) 龍河洞周辺の昆虫, げんせい, (75): 14~39
オオゴキブリの記録を含む, 高知県香美郡土佐山田町逆川, 1997. 9. 27 ; 同町加茂, 1997. 9. 13 (ex. なし)
- 293) 中山周平 (1971) おおごきぶり, 「昆虫の図鑑 (小学館の学習百科図鑑 2)」: 144 (小学館)
♀♂全形図 (カラー) と略解, 朽木の中に住み, 朽木を食べることなど.
- 294) 奈良弘明 (1982) 3月例会に参加して, 自然保護のひろば, (1): 5
煙島にオオゴキブリが生息することにふれる (淡路島).
- 295) 成田篤彦 (1979) 市原市の動物, 「市原市史別巻」: 673~711 (市原市)
オオゴキブリの産地として大福山を挙げる, 千葉県市原市.
- 296) 生川展行・中西元男・秋田勝己・乙部 宏・今村隆一 (1986) 尾鷲市桃頭島の昆虫, ひらくら, 30(2): 28~33

- オオゴキブリの記録を含む, 1985. 3. 31, 1 ex., 幼虫 2 exs.
- 297) 生川展行・大川親雄・中西元男・乙部 宏・横関秀行 (1988) 尾鷲市桃頭島の昆虫Ⅱ, ひらくら, 32(4): 49~54
オオゴキブリの記録を含む, 1987. 10. 4, 幼虫 1 ex.
- 298) 名和秀雄 (1973) 養老公園付近の昆虫類・直翅目, 「養老自然昆虫園に関する調査報告書」: 35~37 (岐阜県開発局管理企業課)
オオゴキブリを所産種の一つに挙げる, データなし.
- 299) 名和秀雄 (1995) オオゴキブリ——台所の同類とは格が違う, 「虫のいい嘶」: 106~107 (中央法規)
生態写真(カラー)と解説, 岐阜市の金華山ではマツの切株などの穴で見出せることにふれる.
- 300) 名和昆虫研究編集部(永沢小兵衛) (1902) 蜚蠊科 Blattidae, 「第壹回全国昆虫展覧会出品目録全」: 100~101 (名和昆虫研究所)
おほごきぶり *Panesthia angustipennis* Illig. の標本産地として岐阜県加茂郡(河合 広, 水野牛之介出品); 武儀郡(天野秋二)を挙げる, データなし.
- 301) 根来 尚 (1985) オオゴキブリの記録, 富山県科学文化センター研究報告, (7): 93
高岡市伏木勝興寺境内, 1984. 11. 14, 2♂, 幼虫 2 exs.
- 302) 日本昆虫協会 (113) オオゴキブリ, 「ポケット図鑑身近な昆虫」: 362 (主婦の友社)
八王子産成虫の生態写真(カラー)と略解, 学名は *Panesthia spadica* (亜種名用いず), 生息環境(森林内の朽木), 形態(成熟した個体は仲間にかじられ翅の短くなっているものが多いこと; 脚のトゲ鋭く, つかむと痛いことなど), 分布(本州以南)など.
- 303) 新家 勝 (1995) 兵庫の里山 (11) 里山のクヌギ林, 月報あしおと, 1995(11): 2~3
腐朽し始めたクヌギにオオゴキブリが住みつくことにふれる.
- 304) 西 真弘 (2001) 福山市での採集, びんご昆虫談話会 News Letter, (37): 1
福山市仙酔島でオオゴキブリが見られたことにふれる, 2001. 10. 14.
- 305) 西川芳太郎 (1969) 箕面の直翅類について, 箕面の生物, 3(4): 25~46, 2 pls.
オオゴキブリ: 箕面(大阪府箕面市)では各所に産し, マツの切株, 倒木(朽木)に見られること; 腐朽度は年輪部だけ残し, すき間が細粉状になり, 指先でまるめることができるほど湿っているものが適当であること; シロアリとの雑居も見られることなど, 飼育記録(半年間)を含み, いつのまにか 4 mm くらいの幼虫数頭現われたことにふれる(胎生は未確認).
- 306) 西川芳太郎 (2975) 箕面川ダム自然環境の保全と回復に関する調査研究(予報)陸生昆虫の部, 「箕面川ダム自然環境の保全と回復に関する調査研究(第1

- 報) 報告書」: 197~233 (大阪府北部ダム建設事務所・環境設計課)
 オオゴキブリを所産種の一つに挙げる.
- 307) 西川芳太郎 (1977) 箕面ダム地域 (高山道) の昆虫について. 「箕面川ダム自然環境の保全と回復に関する調査研究」: 256~317 (大阪府)
 オオゴキブリが森林地帯, 朽木中で見られることにふれる.
- 308) 能生町教育委員会 (伊藤信太郎ほか) (1978) 白山神社の社叢. 「きょうど能生町第1集」: 4~7 (同委員会)
 オオゴキブリが生息することにふれる. 新潟県西頸城郡能生町.
- 309) 野村健治 (1996) 自然情報. Natural Note, (106): 3
 オオゴキブリの記録を含む. 兵庫県川西市西多田, 1996. 3. 31.
- 310) 野村周平 (1981) 御船山の昆虫4種について. 佐賀の昆虫, (11): 22~23
 オオゴキブリの記録を含む. 武雄市武雄高校, 1979. 5. 6. 1 ex.; 1979. 6. 13, 1 ex.; 武雄市御船山, 1979. 6. 4, 1 ex.; 1980. 5. 17, 2 exs. (幼虫1 ex. 含む).
- 311) 野津幸夫 (1997) 島根県産昆虫類分布記録 (2). すかしば, (45): 54~55
 オオゴキブリの記録を含む. 大原郡木次町東日登 (自動販売機灯下), 1995. 8. 17, 1 ex.
- 312) 緒方一喜・田中生男・安富和男 (1989) ゴキブリの種類. 「害虫駆除シリーズ4. ゴキブリの駆除」: 8~13 (日本環境衛生センター)
 オオゴキブリ亜科のゴキブリとしてオオゴキブリ (分布: 本・四・九) とクチゴキブリ・エサキクキチゴキブリの3種を挙げる.
- 313) 小川一男 (1956) ゴキブリ類3種の染色体. (30/31): 1040~1042
 オオゴキブリを含む. 広島産の材料による記録. $2n=85$
- 314) 荻野 昭 (1970) オオゴキブリの寿命. インセクトリウム, 7(11): 216
 1964. 12. 8, 朽木より採集した幼虫 (4 exs.) A: 1年7カ月 (成虫から死まで約1カ月); B: 4年4カ月 (成虫期3年); C: 4年4カ月 (成虫期3年); D: 5年6ヶ月 (成虫期4年, 飼育期間5年6ヶ月 1970. 6. 16死).
 産地の記なし. 飼育中の写真をつける.
- 315) 荻野 昭 (1955) 沖縄での採集調査. インセクトリウム, 32(1): 28~29
 オオゴキブリの記録を含む. 西表島見晴台 (浦内川), 1994. 11. 15 (ex. なし)
- 316) 大貝秀雄・相馬明直・広畑政己・相坂耕作 (1995) 生島樹林昆虫調査. てんとうむし, (特別号, 遼虫千年): 37~43
 オオゴキブリの記録を含む. 1995. 6. 4. 生島は兵庫県赤穂市坂越湾に浮かぶ小島嶼.
- 317) 大原賢二 (1994) 徳島県のゴキブリの記録. 徳島昆虫, (6): 11~14
 オオゴキブリを記録した文献として河野 (1961), 平井 (1973, 1975) を挙げる.

- 318) 大石久志 (1991) 冠島の昆虫類. 「京都の昆虫」: 213~215 (京都新聞社)
オオゴキブリを朽木に見られる南方系種として挙げる.
- 319) 大川親雄 (1957) 三重県の採集品について. 新昆虫, 10(12): 32~33
オオゴキブリの記録を含む. 飛鳥村 (現熊野市), 1951. 8. 9; 一志郡美杉村平倉演習林, 1955. 6. 30 (久保良探).
- 320) 大久保一治 (1939) 高知県に於ける直翅類の方言 (3) 附. 高知県の直翅目目録.
昆虫界, 7(64): 361~366
オオゴキブリの産地として沖ノ島村, 平田村, 松葉川村, 安芸町, 馬路村を挙げ, 本種は幡多郡・安芸郡地方に産す, と付記.
- 321) 大町文衛・白井重雄・山田志郎 (1951) 昆虫類. 「三重県産生物目録」: 88~148 (三重県生物調査委員会)
オオゴキブリを所産種の一つに挙げる.
- 322) 大町文衛・山下善平・市橋 甫・石田昇三・北川賢澄・的場孝郎・中根敏勝・成瀬善一郎・大川親雄・山本裕嗣 (1959) 熊野灘沿岸地方の昆虫. 「熊野灘沿岸国立公園調査報告XI (自然科学調書)」: 189~236, 14 pls. (吉野熊野・伊勢志摩国立公園区域拡張促進協議会)
オオゴキブリが大島から知られることにふれる (データなし).
- 323) 大野正男 (1975) ニホンザルの食糧源としてみた高宕山の動物 (第2報). 「昭和49年天然記念物高宕山のサル生息地総合調査報告書」: 155~181 (千葉県教育委員会)
オオゴキブリを産種の一つに挙げる.
- 324) 大野正男 (1976) 八幡山の森. 「千葉県自然環境保全地域等の設定及び保全対策に関する学術調査報告書」: 107~132, 2 pls. (千葉県環境部)
オオゴキブリの記録を含む. 茂原市上永吉.
- 325) 大野正男 (1980) オオゴキブリ. 「第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書 (昆虫類) 千葉県」: 40 (環境庁)
現認産地として茂原市八幡山, 君津市高宕山, 安房郡天津小湊町清澄山を挙げる.
- 326) 大野正男 (1993) オオゴキブリの分布. 月刊むし, (263): 29
既知産地の県単位でのまとめ.
- 327) 大竹 勝 (1982) 昆虫類. 「犬山市史資料編2. 自然」: 347~446 (犬山市)
オオゴキブリが犬山城で見られることにふれる. 愛知県.
- 328) 大竹 勝 (1984) 尾張本宮山. 「自然観察路ガイド近畿・北陸・中京」: 216~219 (平凡社)
オオゴキブリを所産種の一つに挙げる.
- 329) 大津 高 (1991) ゴキブリ目. 「山形県陸産淡水産動物目録」: 99 (山形県動物環境調査会)
オオゴキブリを所産種の一つに挙げる. 詳記なし.

- 330) 大坪修一 (1989) 鹿児島県大口市周辺の昆虫 (1). *Satsuma*, 37(100): 239~286
オオゴキブリ: 大口市山ノ神, 1985. 10. 18, 1 ex.
- 331) 大塚 勲 (1979) 熊本県のゴキブリに関する資料 (1). 熊本昆虫同好会々報,
25(1): 22~23
オオゴキブリの記録を含む. 上益城郡矢部町目丸, 1979. 1. 7, 1 ex.; 同
町角上, 1979. 11. 4, 6 exs.; (天草) 本渡市染岳, 1979. 4. 15, 5 exs.; 球
磨郡上村白髪岳, 1977. 8. 7, 1 ex.
- 332) 大塚 勲 (1982) 菊池溪谷の陸上昆虫. 「菊池溪谷の動物」: 53~157 (熊本洞穴研
究会)
オオゴキブリが菊池水源で見られることにふれる. 阿蘇郡菊池市.
- 333) 大塚 勲 (1988) 白髪岳自然環境保全地域及び周辺地域の昆虫相. 「白髪岳自然環
境保全地域調査報告書」: 161~279 (環境庁自然保護局)
オオゴキブリの記録を含む. 熊本県球磨郡五木村白髪岳, 1980. 7. 29, 1 ex.
大塚 (1979) の記録付記.
- 334) 大塚 勲 (1993) 泉村の陸上昆虫目録. 「泉村の自然・資料編」: 51~192 (泉村役
場)
オオゴキブリの産地として矢山岳 (大塚1980) と板木 (荒牧1983) を挙げ
る. 熊本県八代郡泉村.
- 335) 大塚 勲・吉崎一章 (1980) オオゴキブリの新産地. 熊本昆虫同好会々報, 26(1)
: 19
菊池市菊池水源. 1980. 2. 24, 3 exs.; 八代郡泉村矢山岳, 1980. 3. 9, 12
exs.; 同郡坂本走水源, 1980. 3. 23, 4 exs.; 球磨郡上村大平山, 1980. 3.
16, 2 exs.
- 336) 大塚 勲・吉崎一章 (1987) 陸上昆虫類. 「五木村学術調査 (自然編) 報告書」:
476~627 (五木村総合学術調査団)
オオゴキブリの記録を含む. 頭地, 1983. 1. 15, 1 ex.; 裾川, 1983. 1. 15,
1 ex.; 平沢津, 1981. 8. 1, 1 ex.; 1983. 1. 16, 2 exs. (熊本県球磨郡五
木村).
- 337) 岡田正哉 (1984) 直翅系昆虫類. 「愛知の動物 (愛知文化シリーズ3)」: 89~98
(愛知県郷土資料刊行会)
オオゴキブリの記録を含む. 瀬戸市定光寺, 1♂, 2幼虫. カシ類の倒木よ
り.
- 338) 岡嶋恒丸 (1973) オオゴキブリ科. 「屋久島の昆虫相」: 28 (屋久町教育委員会)
オオゴキブリを所産種の一つに挙げる (朝比奈1965の引用).
- 339) 岡嶋銀次 (1927) 昆虫類. 「鹿児島県博物調査 (第一輯)」: 1~28 (鹿児島県教育
調査会)
オオゴキブリを所産種の一つに挙げ, 方言 (アマメ→ワモン, ゴキブリも
同じくアマメ), 生態の解説などにふれる. データなし.

- 340) 岡島秀治ほか (1980) ゴキブリのなかま. 「学研版学習科学図鑑昆虫 2. 甲虫ほか」: 36 (学習研究社)
オオゴキブリの全形図 (カラー) と解説を含む. 分布 (本・四・九・屋), 生息環境 (暖地の森林, 朽木の樹皮下など), 食性 (朽木を食う), など.
- 341) 岡本四郎 (1939) 和歌山県昆虫目録 (八). 虫の世界, 3(3/4): 59~60
ツノオオゴキブリを所産種の一つに挙げる. データ詳記なし.
- 342) 岡崎クラシック株式会社 (1998) 動物. 「ザ・トラディショナルゴルフクラブ建設に係る環境影響評価書」: 300~375 (同社)
オオゴキブリを朽木中より 2 exs. 得たとの記録を含む. 岡崎市岩中町と蔵次町. 確認地点を示す分布図をつける.
- 343) 岡崎クラシック株式会社 (1998) 昆虫類現地調査確認種目録. 「ザ・トラディショナルゴルフクラブ建設に係る環境影響評価書 (資料編)」: 139~150 (同社)
オオゴキブリを含む.
- 344) 奥島雄一 (1994) 直翅系昆虫. 「倉敷のいきもの (第10回特別展解説)」: 24~25 (倉敷市立自然史博物館)
オオゴキブリを所産種の一つに挙げる. 生息環境など一般的解説のみ. 標本写真 (モノクロ) をつける.
- 345) 奥島雄一 (1998) 由加山の昆虫. 「由加山の自然」 (第14回特別展「由加山の自然」解説): 11~16 (倉敷市立自然博物館)
オオゴキブリを所産種の一つに挙げる. 標本写真をつける.
- 346) 小野展嗣 (1992) 本州と九州の森で暮らすーオオゴキブリ. 「くらしの昆虫記ーゲンゴロウはどこへ行った」: 88~89 (日経サイエンス社)
形態, 生息環境 (森林, 朽木中のトンネルで集団生活, 植物繊維を栄養とする), 分布 (本・九) などにふれる. 生態図をつける.
- 347) 小野田勝造・小野田伊久馬 (1938) おほごきぶり・つのおほごきぶり. 「内外動物原色大図鑑 4. 昆虫編」: 141~142, pl. 36 (誠文堂新光社)
おほごきぶり: *Panethia angustipennis* Illig. 分布 (本・四・九・支・印, 形態など. 原色図をつける.
つのおほごきぶり: *P. spadica* Shir. 分布 (本, 中国地方に産するも稀・支・印), 形態など. 原色図をつける.
- 348) 小野田勝造 (1934) オホゴキブリ・ツノオホゴキブリ. 「原色図鑑動物大辞典」: 624~625 (中文館書店)
オオゴキブリを *Panesthia angustipennis*, ツノオオゴキブリを *P. spadica* の学名で解説 (形態・分布など). オオ: 本・四・九・支・印, ツノ: 本・支・印. オオの♀, ツノの♂の原色図をつける.
- 349) 恩賜記念科学館 (1929) 昆虫標本・直翅類. 「陳列品目録」: 180~183 (同館, 京城)
オホゴキブリの標本 1 ex. の収蔵にふれる. 詳記なし.

- 350) 長田 勝 (1985) 網翅目. 「福井県昆虫目録」: 33~34 (福井県)
 オオゴキブリを含む. 産地として福井市 (八幡山・文珠山); 南条郡: 南条町杣山, 今庄町藤倉山・夜叉ヶ池; 敦賀市西方ヶ岳・松原公園・猪ヶ池; 三方郡三方町御神島; 小浜市遠敷・蒼島; 大飯郡高浜町音海・青葉山を挙げる. 引用.
- 351) 音羽の自然研究部会 (1988) セミ類・その他. 「音羽町の自然」: 97 (愛知県音羽町教育委員会)
 オオゴキブリを南方系で朽木にいる昆虫として挙げるが地名の詳記なし. 標本写真をつける.
- 352) Princis, K. (1952) Kritische Verzeichnis der Blattarien Chinas und Tibets. Opuscula Entomologica, 17(1): 33~54
 中国産の Panesthiidae として, *angustipennis*, *spadica* を含め 5 種を挙げる (*bramina*, *transversae ornata*). 産地は引用.
- 353) Roth, L. M. (1979) A taxonomic version of the Panesthiinae of the world III. The genera *Panesthia* Serville and *Miopanesthia* Saussure (Diptoptera: Blattaria: Blaberidae). Australian Journal of Zoology, Suppl. ser 74: 1~276
Panesthia 属 54 種 (13 新種を含む), 9 亜種, *Miopanesthia* 属 8 種 (1 新種含む) についての形態, 分布, 種・亜種の検索表を盛り込んだモノグラフ. このうちアジア大陸 (中国~インド), 東インド諸島, フィリピン, 台湾・琉球・日本など, 広い分布域をもつ *P. angustipennis* には 7 亜種 (*angustipennis*, *baluensis*, *epostalata*, *cognata*, *spadica*, *wegneri*, *brevipennis*) を認め, 日本のオオゴキブリは琉球・台湾の個体群とともに亜種 *spadica* として扱っている. *spadica* について: タイプの所在, ♂・♀・幼虫の記載, 調査標本の一覧: 東京 (東京付近・高尾山), 山梨 (笹子), 岐阜 (岐阜・高山), 三重 (伊勢 Shimojiyama), 広島, (三段峡・広島), 香川 (象頭山), 豊子島, 屋久島, 対馬 (竜良山), 琉球・台湾 (各地) のデータなどにふれる. また沖縄からの *P. histrio* の記録 (Fritze) や, 台湾からの *P. saussurii*, *angustipennis* (基本亜種の扱い) の学名での記録はすべて *spadica* と見做し, *spadica* の学名での中国からの記録 (Bey-Bienko) は *cognata* の誤りであるとする. 末尾 172~173 頁の図版では三段峡産の♂, 岐阜産の♀, 象頭山産の幼虫それぞれについて, 全形, 交尾器その他の部分の写真多数をつける.
- 354) 佐保 護 (1933) ゴキブリ科. 「都城地方の昆虫」: 86~87, 135 (自刊)
 オオゴキブリを所産種の一つに挙げる. 詳記なし. 宮崎県都城市.
- 355) 三枝博幸 (1999) オオゴキブリ. 「チョウも飼いたい・サソリも飼いたい (アレコレ知りたいシリーズ②)」: 124~125 (旺文社)
 学名 *Panesthia apadica* (*spadica* の誤植), 英名 Great black cockroach

- で解説。分布 (北・四・九・対・屋・台; 北海道を分布域に挙げているが正式な記録はない), 卵期間 (50日?), 幼虫期間 (1.5年), 成虫期間 (3~4年), 生息環境 (朽木中; 羽化したての成虫は朽木外に出ていることあり; 消化管に原虫を宿してセルロースも餌として利用する), 飼育器 (弁当箱やコーヒーの空ビンなど, 飼育温度, 15~25°C), 餌 (すてられたシイタケ栽培用の古いホダ木などに加えて水分補給用のリンゴ小片), 繁殖 (卵胎生で幼虫をうみ, 幼虫は母親とくらす), など。早の原色図をつける。
- 356) 斎藤勝雄 (1989) 斗蔵山でオオゴキブリを目撃。みやぎインセクト, (11): 29~30
宮城県角田市小田斗蔵山, 1989. 7. 29, 2 exs. (目撃); 1989. 9. 25, 1 ex. (目撃)。
- 357) 坂部元宏 (1958) 伊勢度会地方の直翅目 (1)。ひらくら, 2(24): 141
オオゴキブリの産地として大宮町逢坂峠を挙げる (三重県度会郡)。
- 358) 坂部元宏・宮川高校生物部 (1973) 伊勢神宮林の昆虫に関する二, 三の知見。日本昆虫学会東海支部報, (26): 11
1966年から15回にわたった調査でオオゴキブリも確認できたことにふれる。データなし。
- 359) 坂口清一 (1989) おおごきぶり科。「香川県産昆虫標本目録」: 142 (自刊)
オオゴキブリの標本データを含む。仲多度郡琴平町象頭山, 1996. 8. 27, ♀。
- 360) 坂口総一郎・池田義雄 (1932) 「和歌山県産昆虫目録」: 1~50 (自刊)
ツノオオゴキブリを所産種の一つに挙げる。
- 361) 坂口徳太郎 (1934) 第二郷土館博物之部目録昆虫 (一)。「(愛媛師範) 郷土館目録」: 59~70 (同校)
オオゴキブリの標本産地として新居浜市・金子村を挙げる。
- 362) 坂井治雄 (1982) オオゴキブリ。「千葉大百科事典」: 111 (千葉日報社)
分布北限を新潟と記し, 東京都下の高尾山に産することにもふれる。千葉県の南部に分布していると思われるが未確認とする。
- 363) 酒井雅博・大林延夫・吉原一美・相田和博・岡田圭司・吉道俊一・矢野真志・小野浩司・小西伴尚 (1998) 愛媛県南宇和郡内海村の昆虫類 (I)。愛媛大学農学部紀要, 42(2): 167~190
オオゴキブリの記録を含む。柏坂, 1996. 5. 18~19, 2 exs.; 1965. 11. 3~5, 6 exs.
- 364) 酒井哲弥・佐々治寛之 (1998) ゴキブリ目。「福井県昆虫目録第2版 (みどりのデータバンク付属資料第2回)」: 44 (福井県県民生活部自然保護課)
オオゴキブリの記録を含む。南条郡南条町上牧谷, 1996. 8. 18, 三方郡三方町常神, 1993. 6. 25, 1 ex.
- 365) 坂元幸一・出来和法・田中洋海 (1972) 屋久島採集調査報告 (1971年夏)。Leben, (10): 35~55

- オオゴキブリの記録を含む。屋久町安房, 1971. 7. 25, 1 ex.
- 366) 佐古正彦 (1954) 山口県産直翅類目録. 山口生物, 2(1): 20~29
 オオゴキブリの記録を含む。阿武郡小川村, 1952. 8. 9, 1 匹.
- 367) 桜谷保之 (1968) オオゴキブリを宮城県金華山で採集. インセクト, 18(2): 16
 宮城県牡鹿郡牡鹿町金華山島, 1967. 8. 6~7, 3 exs. & 幼虫 3 exs. (モミ
 の朽木樹皮下より).
- 368) 佐々治寛之 (1978) 福井県御神島にヒメハルゼミ生息. 付 暖地性昆虫数種の分布
 記録. 昆虫と自然, 13(9): 23~24
 御神島 (福井県三方郡三方町) の暖地性昆虫の一つとしてオオゴキブリを
 挙げる. 個体数も多いと付記.
- 369) 佐々治寛之 (1991) 青葉山・周辺の生物. 「福井県大百科事典」: 4 (福井新聞社)
 オオゴキブリが各所で見られることにふれる.
- 370) 佐々治寛之 (1991) 御神島・生物. 「福井県大百科事典」: 173 (福井新聞社)
 オオゴキブリが優占種の一つになっていることなど.
- 371) 佐々治寛之・奥野 宏 (1980) オオゴキブリ. 「第2回自然環境保全基礎調査動物
 分布調査報告書 (昆虫類) 福井県」: 44 (環境庁)
 現認産地: 福井市八幡山・文珠山; 南条郡: 南条町杣山, 今庄町夜叉ヶ池
 ; 敦賀市松原; 三方郡三方町御神島; 小浜市蒼島; 大飯郡高浜町青葉山.
- 372) 佐々治寛之ほか (1976) 福井県の自然 4 昆虫類. 「福井県自然環境保全基礎調査報
 告書」: 47~56 (福井県)
 オオゴキブリ: 青葉山, 日野山, 杣山, 文珠山などの山地の樹皮下で普通
 に見られる, とし, 杣山産の標本写真をつける.
- 373) 佐々治寛之ほか (1976) 主要調査地域の自然環境 9 その他の地域 4 昆虫類. 「福
 井県自然環境保全基礎報告書」: 249~254, 260 (福井県)
 オオゴキブリが青葉山周辺で見られることにふれる.
- 374) 笹川満広・岸井 尚 (1980) オオゴキブリ. 「第2回自然環境保全基礎調査動物分
 布調査報告書 (昆虫類) 京都府」: 41 (環境庁)
 冠島を現認産地として挙げる. 環境は良好と付記.
- 375) 佐々木茂美 (1995) 番匠川流域の昆虫相の解明. 二豊のむし, (30): 1~59
 オオゴキブリの記録を含む. 大分県東海部郡弥生町井崎川流域周辺; 同郡
 本匠村番匠川流域周辺.
- 376) 佐々木茂美・野崎敦士・佐藤 朗 (1995) 別府市の昆虫 (1993). 「別府の自然 (別
 府市自然環境学術調査報告書)」: 401~422 (別府市環境部環境保全課)
 オオゴキブリを所産種の一つに挙げる.
- 377) 佐藤勝信 (1971) 箱根地方動植物目録 5 昆虫類. 「箱根の樹木と自然」: 249~281
 (箱根樹木園)
 オオゴキブリの産地として小田原, 関本を挙げる.
- 378) 佐藤勝信 (1983) ゴキブリ類. 「神奈川県大百科事典」: 327~328 (大和書房)

オオゴキブリの解説を含む。朽木や落葉下にすむ大型種。県内では最近減ってきていること、しめった林の中で見られることなど。具体的な産地の記録なし。

- 379) 佐藤勝信 (1989) オオゴキブリ, 「箱根の昆虫」: 194~195 (神奈川新聞社)
箱根では湯本や小田原の林の中で見かけられることにふれる。成虫の凸版図と形態・生態の解説を含む。
- 380) 佐藤正孝 (1974) ゴキブリのなかま, 「文研の学習図鑑生物の世界・昆虫一くらしとなかま」: 113 (文研出版)
オオゴキブリを含む。原色図と略解。分布 (本州西南部・四・九・屋), 生息環境 (野外の朽木や木の穴), など。
- 381) 佐藤正孝 (1978) 熱田神宮林の昆虫類, 「熱田神宮林苑保護委員会調査報告書」: 93~110 (熱田神宮々庁)
所産種の一つにオオゴキブリを挙げる。1975. 7. 17, 2 exs
- 382) 佐藤正孝 (1980) オオゴキブリ, 「第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書 (昆虫類) 愛知県」: 58 (環境庁)
オオゴキブリの産地列挙。名古屋市熱田区熱田神宮林 (現認, 文献記録); 同市千種区東山公園 (現認, 以下同じ); 知多市日長日長神社; 瀬戸市定光寺; 犬山市羽黒大黒神社。
- 383) 佐藤正孝ほか (1983) 「東三河地区昆虫実態調査」: 1~159 (東海自然環境研究会)
オオゴキブリを所産種の一つに挙げる。産地: 南設楽郡鳳来町鳳来神社, 新城市諏訪神社。
- 384) 佐藤良次 (1996) 新潟県のオオゴキブリの記録, 越佐昆虫同好会報, (76): 35
岩船郡朝日村三面石黒山麓, 1995. 8. 19, 1♂, 1♀。
- 385) 瀬川哲夫 (1998) オオゴキブリ, 「富山県の昆虫類——自然環境管理計画策定のための調査 (富山昆虫研究会編)」: 19~20 (富山県自然保護課)
南方系の種で, 県内での分布が限られていることより, 限定分布種・稀少種に位置づける。産地: 上新川郡大山町上滝 (大川寺), 1970. 7. 13, 1 ex. (幼); 高岡市伏木 (勝興寺境内), 1984. 11. 14, 2♂, 2 exs. (幼); 1986. 8. 25, 1♂, 2 exs. (幼); 氷見市, 1985. 5. 22, 1♀。県内分布図と伏木産♂・幼虫の標本写真をつける。
- 386) 柴田和平ほか (1986) 動物, 「瀬戸市史資料編 2. 自然」: 327~450 (愛知県瀬戸市)
オオゴキブリを所産種の一つに挙げる。データなし。
- 387) 島津製作所標本部 (1911) 動物学標本ゴキブリ科 Blattidae, 「動物学用標本器具材料目録」: 32~33 (同部)
オオゴキブリの標本価をワモン・ヒメモン・コバネブリなどと並んで20銭とする (チャバネなどは10銭)。
- 388) 清水大典 (1961) 置賜新博物資料 (その1), つち団子, (1): 3~6
オオゴキブリの記録を含む。山形県西置賜郡小国町三面山峡, 1957. 8, 1 ex.

- (落葉中より). 全形図をつける. 雪深い東北の山岳地帯で発見されたことへのコメントを付記.
- 389) 清水 薫 (1956) 丸尾温泉附近の昆虫目録. 宮崎リネ会報, (14): 29~35
オオゴキブリを記録. 鹿児島県姶良郡牧園町. データなし (1956. 5. 9~8. 10の採集品).
- 390) 下野谷豊一 (1989) 大野市下打波でオオゴキブリ採集. だんだら, (3): 20
1988. 5. 1, 1♀. 他に幼虫数 exs. 目撃したと付記. (福井県).
- 391) 信濃教育会北佐久部会 (1928) ゴキブリ科, 「長野県北佐久郡昆虫調査書」: 20 (同部会)
所産種の一つにオオゴキブリ *Panesthia angustipennis* を挙げる. データなし.
- 392) 新保友之 (1971) 琵琶湖周辺の昆虫相. 「琵琶湖国定公園学術調査報告書」: 373~438 (琵琶湖国定公園学術調査団)
オオゴキブリを所産種の一つに挙げる. 産地: 滋賀郡志賀町木戸.
- 393) 新保友之 (1980) オオゴキブリ. 「第2回自環境保全基礎調査動物分布調査報告書 (昆虫類) 滋賀県」: 56 (環境庁)
現認産地: 大津市岩間寺頂上付近・秋葉台中ノ庄谷; 滋賀郡志賀町木戸・樹下神社.
- 394) 新保友之・保積隆夫 (1979) 滋賀県の昆虫相. 「滋賀県の自然」: 801~889 (滋賀県自然保護財団)
オオゴキブリの産地として滋賀郡志賀町木戸を挙げる.
- 395) 篠永 哲 (1975) オオゴキブリ. 「中高生図鑑・昆虫Ⅲ」: 218, 664 (学習研究社)
Panesthia spadica の学名で解説. 形態, 生息環境, 分布 (本州中部以南~屋久島) など. 標本写真 (カラー) をつける.
- 396) 白畑孝太郎 (1980) オオゴキブリ. 「第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書 (昆虫類) 山形県」: 63 (環境庁)
現認記録: 最上郡戸沢村三ツ沢, 西置賜郡小国町朝日岳針生平・飯豊山温身平. 文献記録: 小国町朝日岳三面峽. 山間地帯のブナ林に生息.
- 397) 白畑孝太郎・黒沢良彦 (1970) 昆虫類. 「飯豊連峰総合学術調査報告」: 179~214 (山形県総合学術調査会)
オオゴキブリの記録を含む. 西置賜郡小国町温身平, 1969. 8, 1♀.
- 398) 白畑孝太郎・黒沢良彦・菊地賢治 (1982) 山形県産昆虫目録. 「最上川総合学術調査報告」: 463~553 (山形県総合学術調査会)
オオゴキブリの産地として飯豊山ヌクミ平, 新庄市を挙げる.
- 399) 白井忠治 (1939) 箕面産昆虫目録に追加すべき昆虫3題. 関西昆虫雑誌, 5(3): 110~111
ツノオオゴキブリの記録を含む. 1937. 9. 19, 1♂. 大阪府箕面市.
- 400) Shraki, T. (1906) Die Blattiden Japans. Annot. Zool. Japon., 6(1): 17~35,

1 pl.

松村松年の所蔵標本に基き *Panesthia angustipennis* (オオゴキブリ) と *Cryptogercus spadicus* (クマコオロギ) を記録. オオは琉球および播州産の標本. 独文による記載文をつける. クマは名和靖が12月に岐阜で採集した標本(幼虫)をタイプとする新種としての記載. 今日, 日本のオオゴキブリの学名に当てられている. 全形図をつける.

- 401) Shiraki, T. (1931) Orthoptera of the Japanese Empire, part II. Blattaridae. Insecta Matsumurana, 5(4): 171~209

Panesthiinae として *Panesthia* と *Salganea* を扱う. *Panesthia spadicum* はフィリピンの *saussuri* に酷似するとして, それとの区別点を中心に形態について再掲載. 産地を台湾各地 (Karenko, Horisha, Taiheisan, Tamaru, Arisan, Kosempo, Fuhosho, Shu-Shu, Taihorin, Hosan, Yamano Taiko), 中国 (Tsha-Jiu-San). Karny によって *P. saussurei* と同定された多数の標本はすべて *spadicum* であること; タイプ標本は台湾総督府中央研究所の Ent. Mus. にあること; にもふれる.

その他, *P. angustipennis* (台湾: Kosempo; 日本: 沖縄・播州; スマトラ; ボルネオ; フィリピン; アンボイナ), *P. incerta* (台湾: Horisha・Fuhosho・Kosmpo・Musha・Shinchiku; 日本: Okinawa; ビルマ) をとりあげ, 分布にふれると同時に検索表で3種の区別点を示す. *Salganea* 属については *morio* と *passaloides* の検索表と産地 (球・日は含まれない) を扱う.

- 402) 素木得一 (1932) おおごきぶり. 「日本昆虫図鑑」: 2038 (北隆館)

Panesthia angustipennis の学名で解説. 形態 (♂の凸版図をつける). 分布 (沖・台・東洋熱帯など).

- 403) 素木得一 (1949) おおごきぶり. 「学生版日本昆虫図鑑 (初版)」: 408 (北隆館)

Penesthia spadica Shiraki の学名で解説. 形態, 生息環境 (朽木), 分布 (本・四・九), など. ♂の全形図をつける.

- 404) 素木得一 (1950) おおごきぶり. 「日本昆虫図鑑 (改訂版)」: 55 (北隆館)

Panesthia angustipennis の学名で解説. 形態, 分布 (九・沖・台・東洋熱帯) など. ♂の全形図 (凸版) をつける.

- 405) 素木得一 (1954) カタゴキブリ亜科. Subfam. Panesthiinae Karny. 「昆虫の分類」: 127 (北隆館)

邦産種としてオオゴキブリ *Panesthia angustipennis* Illiger と *Panesthia incerta* Br. V. W. (本と九) を挙げる. 形態, 生息環境にふれ, オオゴキブリ 32~40mm, *inserta* は 30 mm 内外で両種には大きさに差のあるような表現になっている. オオゴキブリの全形図をつける.

- 406) 白水 隆 (1950) 耶馬溪に昆虫を採る. 耶馬溪の生物, 1(2): 1~6

ツノオオゴキブリ *Panesthia spadica* が森林中の朽木で見られることにふ

れ、九州初発見であろうと付記。

- 407) 白水 隆 (1958) 対馬, 「九州の昆虫・採集案内」: 107~112 (陸水社)
白岳 (下県郡美津島町) で朽木よりツノオオゴキブリが得られたことにふれる。
- 408) 白水 隆・宮田 彬 (1976) 対馬産昆虫類目録, 「対馬の生物」: 567~763 (長崎県生物学会)
オオゴキブリを所産種の一つに挙げる。産地: 有明山・目保呂・白嶽・志多留・仁田・久根上槻・久根田舎。関係文献付記。
- 409) 静岡県自然保護課 (1996) 自然林の中の昆虫, 「小笠山 (静岡県自然観察ガイドブック)」: 25 (静岡県小笠山総合運動公園建設事務所)
オオゴキブリが老木の樹皮下で群れていることにふれる。標本写真 (モノクロ) をつける。
- 410) 添野光一 (1974) 筑波山でオオゴキブリ, インセクト, 25(1): 24
茨城県筑波山, 標高300m付近のアカマツ倒木より (割れ目に潜伏), 1973. 3. 11, 成虫と幼虫各 2 exs.
- 411) 杉本 一 (1986) 袋井市でオオゴキブリを採集, 遠州の自然, (9): 62
袋井市油山寺, 1985. 7. 3, 1 ex. (石段で)。
- 412) 杉本 悟・森田真樹子・中川はづき (1999) ゴキブリの採集・飼育, 「完全図解・虫の飼い方全書」: 144~149 (東陽出版)
屋外性のゴキブリの一つとしてオオゴキブリをとり上げて解説, 生息環境・食性など, 全形図をつける。
- 413) 杉本 武 (1989) 木枯の森でオオゴキブリを採集, 駿河の昆虫, (146): 4207
静岡市羽鳥, 1988. 10. 17, 幼虫 2 exs.
- 414) 杉野孝雄・渡辺一雄・宮本勝海 (1979) 小笠山, 「静岡県の生物」: 395~396 (日本生物教育会静岡県支部)
所産種の一つにオオゴキブリを挙げる。静岡県掛川市およびその境界域。
- 415) 杉野孝雄ほか (1989) 高草山・大崩海岸, 「しずおかの自然」: 140~143 (静岡新聞社)
オオゴキブリが焼津市高草山で見られることにふれる。
- 416) 杉浦邦彦 (1969) 冬季, 伊勢神宮内の切株でえられた昆虫, ひらくら, 13(6): 64
オオゴキブリがスギ・アカマツの樹皮下から得られたことにふれる。三重県伊勢市伊勢神宮々域 (内宮) の北山, 1969. 1. 29 (2x. なし), 切株は伊勢湾台風で生じた倒木の伐採株であると付記。
- 417) 杉山恵一 (1982) 動物の観察, 「自然観察の基礎」: 111~218 (静岡県自然保護課)
オオゴキブリの一種が見られ, 静岡県は分布の北限であろうとする。
- 418) 杉山恵一 (1986) ゴキブリ, 「静岡昆虫記」: 77~78 (自刊)
静岡県はオオゴキブリの分布北限であろうとする (これは誤り)。
- 419) 鈴木元次郎 (1915) Orthoptera 直翅目, 「花園昆虫研究所標本目録」: 5~7 (花園

昆虫研究所)

オオゴキブリを学名, *Panesthia angustipennis*, 和名ヲムゴキブリで収録. *P. morio* タイワンヲムゴキブリも含める.

- 420) 鈴木友之 (1982) 東三河南部におけるオオゴキブリの分布. 虫譜, 20(2): 29~30
蒲郡市豊岡町, 1981. 8, 1 ex.; 宝飯郡御津町御津山頂, 1981. 8. 7, 1 ex.; 同町広石, 1981. 8. 7, 1 ex.; 豊川市為当町, 1981. 8. 23 他, 多数; 同市白鳥町, 1981. 8. 23, 数exs.; 同市平尾町, 1981. 8. 23, 3 exs.; 新城市富岡, 1982. 221 (ex. なし); 豊橋市石巻本町長楽, 1981. 8. 21, 2 exs.; 同市瓦町, 1971, 1 ex.; 同市雲谷町, 1981. 8. 13, 2 exs.; 同市杉山町, 1981. 8. 13, 数 exs. (目); 渥美郡渥美町田原町, 1953. 6. 15, 1 ex.; 渥美町泉福寺周辺, 1982. 2. 14, 多数. 樹種はシイ (渥美町では冬季クロマツより) であるため社寺林に多いこと; 8~9上は樹表で見られるが, 他の時期は樹内にいること; 越冬虫の状態は数mmの幼虫から成虫まで; 小型の幼虫ほど群居性が大きいこと; など.
- 421) 鈴木友之・松野更一 (1982) 東三河地方におけるオオゴキブリの分布 (続報). 虫譜, 21(1): 29~30
1982年度の調査記録. 新城市富岡 (富岡神社)・中宇利 (車神社・日吉神社), 豊橋市石巻中山町 (大蔵神社, 南設楽郡鳳来町 (富永神社), 新城市八束穂 (諏訪神社)・牛倉 (石座神社), 宝飯郡一宮町 (妙劉寺・白鳥神社)・音羽町 (役場裏山・八王子神社), 蒲郡市宮成町 (大宮神社)・竹谷町 (竹谷神社)・五井町 (長泉寺), 渥美郡渥美町 (泉福寺・山田地区). シイのほか, カシサクラ・クロマツなどでの発見例付記. 1981~82年の調査で確認した生息地の分布図をつける.
- 422) 田畑郁夫 (1993) 北九州のゴキブリ. わたしたちの自然史, (44). 12~14
オオゴキブリが朽木中に見られることなど (データなし). 背・腹面2枚の標本写真 (モノクロ) をつける. エサキクチキゴキブリ (英彦山) にもふれる.
- 423) 高橋啓暢 (1976) 小国でオオゴキブリを採集. 山形昆虫同好会々誌, 6(1): 1
西置賜郡小国町 (木材搬出直後の貯木場, 堆積した木屑中), 1964. 7. 25, 1♂. 標本写真をつける.
- 424) 高橋耕司 (1989) 青森県の直翅系ゲテ虫一何種いるかを中心に, Tsugaru-Konchû, (49): 1~3
オオゴキブリの記録は誤報 (産地の誤りまたは誤同定) あるいは何らかの偶産ではないか, とする (出典不明と付記).
- 425) 高橋耕司 (1989) 青森県の直翅系ゲテ虫 II 文献記録を中心に, Tsugaru-Konchû (50): 1~4
オオゴキブリの記録状況. 松野武敏ほか (1966) による十二湖の記録中心.
- 426) 高橋真弓 (1990) 小笠山. 「ふるさと自然・西部編」: 62~63 (静岡県自然保護

課)

オオゴキブリが自然林の朽木中で見られることにふれる。掛川市ほか。

- 427) 高橋雄一 (1999) 斗蔵山及び周辺地域の昆虫。「斗蔵山周辺自然環境調査報告書」: 258~330 (角田市教育委員会)
オオゴキブリの記録を含む。宮城県角田市斗蔵山, 1989. 7. 29, 2 exs. (目撃); 1989. 9. 25, 1 ex. (目撃)。
- 428) 高家博成 (1982) 石垣島へ調査に行きました。インセクトリウム, 19(12): 317
バナナ岳でオオゴキブリの成・幼虫が朽木で見られたことにふれる (1982. 10. 15~18)。
- 429) 高倉康男 (1986) 大分県で採集した昆虫 (1985)。二豊のむし, (16): 9~15
オオゴキブリの記録を含む。宇佐市白足, 1985. 7. 13, 1 ex.
- 430) 高村幸司 (1959) オオゴキブリ新所原善門寺に於いて数十頭採集。生物交流, (13): 26
静岡県浜名郡湖西町 (現湖西市) 善門寺境内, 1958. 6. 22 (エノキの朽木より)。
- 431) 高崎保郎・堀 義宏 (1990) 愛知県のゴキブリ目。「愛知県の昆虫 (上)」: 79~81 (愛知県自然保護課)
オオゴキブリの記録を含む。名古屋市熱田区熱田神宮, 1982. 9. 10, 1♂, 1♀, 2幼; 春日井市明智, 1987. 12, 2幼。その他, 引用産地にもふれる。
- 432) 高島春雄 (1952) 昆虫二題。虫の手帖, 1(4): 1~2
“オオゴキブリは本州にも” のタイトルでオオゴキブリを記録。1) 原色福井県昆虫図譜での記録紹介; 2) 熱海市の蜂須賀 正氏宅浴場 (熱帯植物をあしらった広大な浴場) で獲られた標本 (1951. 9) のこと, など。
- 433) 高柳久和 (1980) 豊根の動物目録・網翅目。「愛知県豊根村の動物」: 150~151 (愛知県豊根村教育委員会)
オオゴキブリの記録を含む。黒川, 1967. 7 (豊根小学校裏庭の朽木に多数群棲していたと付記)。
- 434) 高柳久和 (1998) 昆虫概要。「新編豊川市史第10巻自然」: 375~378 (愛知県豊川市)
豊川市財賀寺の森でオオゴキブリが見られることにふれる。
- 435) 高柳久和 (1998) バッタ類。「新編豊川市史第10巻自然」: 411~415 (愛知県豊川市)
オオゴキブリを所産種の一つに挙げ, 生息環境などにふれる。東三河では鳳来町を生息の北限とする。標本写真 (カラー) をつける。
- 436) 高柳久和 (1998) バッタ類。「新編豊川市史第10巻自然資料」: 207~212 (愛知県豊川市)
オオゴキブリの記録を含む。豊川市為当, 1991. 8. 5; 1996. 12. 31。暖帯林のシイノキなどの朽木内に生息すること, 財賀寺から記録のあること, な

どもふれる。

- 437) 高柳久和 (1999) カマキリ・ナナフシ・ゴキブリの仲間, 「豊橋市自然環境保全基礎調査報告書」: 243~244 (豊橋市保健環境部環境対策課)
所産種の一つにオオゴキブリを挙げる。東三河では鳳来町が北限とする。
標本写真をつける。
- 438) 高柳久和 (1999) ゴキブリ目, 「豊橋市自然環境保全基礎調査報告書 (資料編)」: 63 (同上)
オオゴキブリの記録を含む。石巻山, 1995. 10. 2 (ex. なし)。
- 439) 武智文彦 (1958) 松の切株にいた昆虫。四国虫報, (2): 6
オオゴキブリの記録を含む。愛媛県日振島, 1958. 3. 22。
- 440) 武田 保・菊屋奈良儀 (1979) 森の動物たち (九六位山)。大分生物談話会々報, (22): 11~14
大分市九六位山でオオゴキブリが見られたことにふれる。
- 441) 竹本卓哉 (1982) オオゴキブリ♀。駒虫だより, (2): 21
奈良県矢田丘陵松尾山, 1982. 9. 26, 1♀ (ナラガシワ生木の幹で)。背腹面全形図をつける。
- 442) 竹中英雄 (1980) オオゴキブリ, 「第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書 (昆虫類) 神奈川県」: 77 (環境庁)
現認産地として厚木地飯山観音を挙げる。
- 443) 武藤 明 (1989) 能登半島の昆虫——トンボを中心に, 日本の生物, 3(4): 25~29
オオゴキブリを所産種の一つに挙げる。産地: 羽咋市一ノ宮, 石動山, 輪島市, 山伏山。
- 444) 竹内 英 (1944) 京都府昆虫目録。京都師範生物学会会々報, (2): 5~12
オオゴキブリを所産種の一つに挙げる。詳記なし。
- 445) 丹 信実 (1951) 「無人島の冠島を探検して」: 1~4 (平安高校生徒会)
1951年8月の調査でツノオオゴキブリが得られたことにふれる (京都府)。
- 446) 丹 信実 (1956) 京都府冠島の生物。研究論集, (1): 1~113, 5 pls, (平安学園教育研究会)
ツノオオゴキブリを所産種の一つに挙げる。標本写真をつける。データなし。ヨロイゴキブリ *Panesthia incerta* の産出にもふれる。
- 447) 田村昭夫 (1987) 「浦安地区の生物分布」: 1~22 (東伯町立浦安小学校)
オオゴキブリの記録を含む。鳥取県東伯郡東伯町浦安, 1986. 9. 5, 1 ex. (学校の玄関で)。写真をつける。
- 448) 田辺秀男・杉村光俊 (1996) オオゴキブリ, 「四万十の昆虫たち」: 95 (高知新聞社)
土佐清水市足摺岬で撮影 (1992. 7. 11) した成虫の生態写真 (カラー) と解説 (形態, 卵胎生, 越冬, 分布など)。
- 449) 田中 洋 (1968) 鹿児島県のゴキブリ類 (第1報)。Satsuma, 17(50): 30~39

- オオゴキブリの記録を含む。鹿児島市城山, 1958. 8. 7, 1 ex (死体; 霧島山栗野岳温泉, 1962. 5. 27, 3幼虫, ほか; 屋久島: 安房~小杉谷, 1963. 4. 7, 2幼虫; 黒味川流域, 1963. 4. 9, 3幼虫 (コバネクチキゴキブリと同時に採れると付記). *Salganea* 属のアマミクチキゴキブリ (朝比奈仮称) とコバネクチキゴキブリ (同) にもふれる。
- 450) 田中 洋 (1969) 昆虫採集地案内・屋久島. 昆虫と自然, 4(7): 16~17
朽木をくずすと巨大なオオゴキブリが得られること, クチキゴキブリ (種名への言及なし) が混じることなどにふれる。
- 451) 田中 清 (1991) 昆虫類 (その2). 「上山公園生態系基本調査報告書」: 111~127 (同調査団)
オオゴキブリの産地として諫早市上山を挙げる。
- 452) 田中 清・野田正美・峰 正隆 (1991) 野母半島高浜の昆虫相. こがねむし, (50): 14~32
オオゴキブリを所産種の一つに挙げる。長崎県西彼杵郡野母崎町高浜。
- 453) 田中亮三・渡辺一雄 (1968) 昆虫類. 「榛南 (仮称) 県立自然公園候補地学術調査報告書」: 65~80 (静岡県)
オオゴキブリの産地として榛原, 城東, 高天神 (標本写真) を挙げる。朽木, サクラの皮層のはがれた部分に集まると付記。
- 454) 田中 正 (1972) ゴキブリ. 「栃木県の動物と植物」: 434 (下野新聞社)
オオゴキブリ: 栃木県芳賀郡益子町の高館山で発見され話題になったことにふれる。北限分布地とする。
- 455) 田中 正 (1980) オオゴキブリ. 「栃木県大百科事典」: 89~90 (同百科事典刊行会)
益子町西明寺のシイ林に多産。朽木内に集まって生活, 消化管に共生する原生動物の働きで朽木を利用すること, 翅の完全なものが少ないことなどにふれる。
- 456) 田中丸邦雄・酒巻正昭・大西忠志 (1962) 佐多岬の昆虫. ユーカリ (小倉高校), (10): 23~29
オオゴキブリの記録を含む。大隅半島佐多岬, 1961. 7. 25~26。
- 457) 田中丸邦雄・酒巻正昭・武智昭一・中野国政 (1961) 佐多岬昆虫採集記. ユーカリ (小倉高校), (9): 20~33
オオゴキブリの記録を含む。鹿児島県肝属郡佐多町佐多岬, 1960. 7. 23 (多数)。
- 458) 谷 幸三 (1977) 春日大社境内および原生林の昆虫. 「昭和51年度春日大社境内原生林調査報告」: 97~144 (春日顕彰会)
オオゴキブリが多産することにふれる (照葉樹林の朽木内)。詳しいデータなし。
- 459) 谷 幸三 (1980) オオゴキブリ. 「第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告

書(昆虫類)奈良県」: 62 (環境庁)

現認産地: 奈良市春日山妙見宮・御蓋山・奈良公園; 吉野郡上北山村大台ヶ原山. 文献記録: 奈良市春日山大杉教会前; 桜井市三輪山・多武峯.

- 460) 谷 幸三 (1990) 春日大社境内の昆虫の変遷と保護. 「史跡春日大社境内地実態調査報告及び修景整備基本構想策定報告書」: 143~146 (春日顕彰会)

オオゴキブリが境内(森林にある朽木中)にかなり生息することにより.

- 461) 谷 幸三・富永 修 (1975) 春日山原始林の昆虫. 「特別天然記念物春日山原始林緊急調査報告」: 1~40 (奈良県教育委員会)

オオゴキブリを所産種の一つに挙げる. 照葉樹林内の朽木中に住むと付記.

- 462) 谷 寿一 (1993) 野外のゴキブリ. 「八幡のまちの小さな仲間たち—野鳥・昆虫・魚貝類」: 121 (京都府八幡市役所自然保護課)

オオゴキブリが男山に多産, サクラやマツの朽木の中から見出されるが時おり駅周辺でも見かけられることにより. 成虫と幼虫の標本写真(カラー)をつける.

- 463) 谷 寿一 (1993) 八幡市産昆虫目録. 「八幡のまちの小さな仲間たち—野鳥・昆虫・魚貝類」: 204~222 (京都府八幡市役所自然保護課)

オオゴキブリを含む. 産地として男山を挙げる.

- 464) 登日邦明 (1976) オオゴキブリ. 三熊山の自然, (1): 1~2

三熊山, 先山に見られることにより. 図をつける. 淡路島.

- 465) 登日邦明 (1979) オオゴキブリ. 「三熊山の自然」: 35~36 (淡路自然研究保護連合会)

三熊山で見られる昆虫の一つに挙げる. 幼・成虫の標本写真と解説.

- 466) 登日邦明 (1980) 三熊山の自然の価値を考える. 淡路の文化, 2(1): 33~36

三熊山(淡路島)にオオゴキブリが産することにより.

- 467) 登日邦明 (1982) オオゴキブリ. 「煙島の自然」: 22~23 (南淡町教育委員会)

煙島に見られる昆虫の一つに挙げる.

淡路島では三熊山・先山などで見られること; 森林中の朽木内で生活, 夏季には夜間, 朽木外での活動が見られること; などにより. 成・幼虫の標本写真をつける.

- 468) 登日邦明 (1982) 煙島の動・植物目録. 「煙島の自然」: 113~118 (南淡町教育委員会)

オオゴキブリを含む. データなし.

- 469) 飛山千恵子 (1985) オオゴキブリ. 「決定版生物大図鑑昆虫 1」: 202, 203 (世界文化社)

Panesthia spadica の学名で解説. 分布(本: 中部以南, 四, 九, 隠, 対, 屋); 卵胎生であること; 朽ち木の樹皮下木質部に幼・成虫が群棲すること; 幼・成態で越冬すること; など. 早谷の標本写真と朽木中で生活する谷の生態写真(202)を付する.

- 470) 東電設計校式会社(小菅次男ほか)(1985)「水戸地点陸生動物調査報告書」: 1~137, 2 pls. (同社)
 オオゴキブリの記録を含む。茨城県那珂郡東海村虚空蔵堂; 同照沼(動燃海岸砂丘)。分布図をつける。暖帯林に生息し, 確認地点は北限に近い, と付記。
- 471) 富樫一次(1981) 保護上重要な昆虫類1 直翅類ほか, 「石川県の動植物」: 66~67 (石川県)
 オオゴキブリを選定基準Bで採録。県内の分布図をつける。分布の北限を新潟県とする。
- 472) 富樫一次(1988) 鹿島の森の昆虫相, 日本海域研究所報告, (20): 49~80
 オオゴキブリの記録を含む。石川県加賀市鹿島, 1986. 7. 28 (朽木より)。
- 473) 富樫一次・富沢 章(1999) 主要な昆虫類1. 海浜~山麓地域, 「新版石川の動植物」: 68~69 (石川県環境安全部自然保護課)
 平野部の社叢林・城跡などに残る照葉樹林にオオゴキブリが遺存分布することになる。
- 474) 東北緑化環境保全(株)(1992) 動物, 「柳津西山地熱発電所環境影響調査書」: 1~38 (東北電力)
 計画地点(福島県河沼郡柳津町黒沢地内) 周辺における1990~1991年の調査でオオゴキブリの分布が確認されたことにふれる。確認地の詳記やデータはない。
- 475) 徳本 洋(1964) 石川県の野外性ゴキブリ, 生物研究(福井), 8(1): 14~16
 オオゴキブリの記録を含む。羽咋市一の宮, 1962. 8. 21; 珠洲市山伏山, 1963. 5. 4。
- 476) 徳本 洋(1965) 昆虫類・ゴキブリ類, 「能登半島学術調査書」: 284 (石川県)
 オオゴキブリの産地として羽咋市山伏山を挙げる。神社境内の原生林から発見された, と付記。
- 477) 徳本 洋(1975) ゴキブリ, 「石川県大百科事典」: 279 (北国出版社)
 オオゴキブリの解説を含む。加賀・能登の平地や丘陵地に分布。朽木中にすみ, 屋内には入らないこと, など。
- 478) 徳本 洋(1978) 石川県の昆虫リスト・ゴキブリ類, 「石川県の自然環境(4) 昆虫, クモ, 両生・爬虫類」: 22~23 (石川県)
 オオゴキブリの産地として羽咋市気多神社, 石動山, 輪島市, 珠洲市山伏山, 加賀地方(江沼郡那谷寺)などを挙げる。新潟県を分布北限と記す。
- 479) 徳本 洋(1980) オオゴキブリ, 「第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書(昆虫類) 石川県」: 41 (環境庁)
 現認産地: 珠洲市上野町山伏山, 羽咋市一ノ宮気多神社々叢, 文献記録: 鹿島郡鹿島町石動山, 小松市那谷町那谷寺, 生息環境にもふれる。
- 480) 徳本 洋(1992) オオゴキブリの幼虫, 「石川の自然・昆虫」: 30, 103 (橋本確文

堂企画出版室)

加賀市鹿島の森, 1987. 8. 29. 生態写真(カラー)と生息などの解説.

- 481) 徳本 洋 (1992) ゴキブリ類, 「石川県大百科事典(北国新聞創刊 100 年記念)」: 400 (北国新聞社)
朽ち木に住む大型のゴキブリとしてオオゴキブリを挙げる. 平地から山地にわたって生息するとあるが, 産地への言及はない.
- 482) 徳本 洋 (1998) ゴキブリ目, 「石川の自然環境シリーズ・石川県の昆虫」: 60 (石川県環境安全部自然保護課)
オオゴキブリの記録を含む. 加賀市鹿島の森 (引用)・錦城山, 1997. 1. 28; 小松市那谷寺 (引用)・菩提, 1997. 12. 6; 羽咋市一の宮 (引用); 珠洲市山伏山 (引用).
- 483) 富永 修 (1988) ぱったりぎす in My House. ぱったりぎす, (80): 65~66
オオゴキブリの記録を含む奈良市富雄泉ヶ丘, 1988. 9. 1, 1♂ (成) (light). 自宅 2 階のベランダで見つけたもの. 雨カバーの水たまりで溺死した死体. 灯火に来ることはあまり聞かないので小報の値打ちあり, と付記.
- 484) 富永 修 (1989) コキブリ情報が欲しい. バッタリギス, オオゴキブリの都道府県別分布状況と分布図.
- 485) 富永 修 (1992) ゴキブリ類, 「検索入門セミ・バッタ (宮城頼夫・加納康嗣編)」: 158~177 (保育社)
オオゴキブリを *Panesthia angustipennis spadica* の学名で解説. 形態, 分布 (本・四・九・対・屋・台), 生態 (暖帯林の朽木中に成・幼虫が群棲, 新成虫の♂は夏期朽木外に出たり, 灯火に飛来したりする) など. ヤエヤマオオゴキブリ *P. a. yaeyamana* にもふれる. オオゴキブリ属・クチキゴキブリ属の相違を示す一覧表, オオゴキブリの成・幼虫の全形図 (凸版, オオゴキブリ (成), ヤエヤマオオゴキブリ (幼), タイワンクチキゴキブリ (成) の生態写真, (カラー) などをつける.
- 486) 富沢 章 (1999) 石川県におけるオオゴキブリの新産地と生息状況. 月刊むし, (346): 22~23
江沼郡山中町長谷田白山神社, 1998. 10. 5, 幼虫多数; 1999. 8. 18, 幼虫多数; 賀賀市横北白山神社, 1998. 10. 5, 1♂と幼虫多数; 小松市滝ヶ原八幡神社, 1999. 18, 2♂と幼虫多数. 県内の産地と照葉樹林およびその発生木との関係にもふれる.
- 487) 富田靖男 (1988) 昆虫類, 「宮川流域の自然と文化」: 16~17 (建設省三重工事事務所)
オオゴキブリを暖地性昆虫の代表種として挙げる. 幼虫の生態写真をつける. 三重県多気郡宮川村.
- 488) 富田靖男 (2001) オオゴキブリ——照葉樹林を好む朽木の掃除屋, 「続・故郷の動物」: 88~89 (三重大学出版会)

伊勢神宮の林、熊野灘沿岸の自然林では珍しくなく、紀伊大島などでは朽木中・樹皮下で幼・成虫混群の集団が見つかること、などにふれる。

成虫の標本写真と朽木内幼虫の生態写真をつける。

- 489) 富山 稔 (1961) 岡部町でオオゴキブリを採集. 駿河の昆虫, (33): 889
静岡県志太郡岡部町三輪, 1960. 9. 3, 1 ex. (スギ林内). 県内での他の記録 (静岡市で 1 ex.; 新所原で多数) にもふれる.
- 490) 友国雅章ほか (1984) オオゴキブリ. 「学研の観察図鑑2. 昆虫2・クモ」: 140, pl. 95 (学習研究社)
照葉樹林のくち木内に住み, 木質部を食うこと; 卵胎生であること; 分布 (本・四・九・沖) など, 成虫の標本写真 (カラー) をつける.
- 491) 戸沢信義 (1932) 箕面山昆虫目録. 「名勝箕面山 (大阪府史跡名勝天然記念物調査報告, 第2輯)」: 1~114, pls. 1~7 (大阪府)
オオゴキブリを所産種の一つに挙げる. 大阪府箕面市.
- 492) 豊嶋 弘 (1990) ゴキブリ目. 「高松市市民文化センター所蔵昆虫標本目録」: 49~50, 1 pl. (同センター)
オオゴキブリの標本データを含む. 仲多度郡琴平 町象頭山, 1966. 8. 27, 1♂. 標本写真 (モノクロ) をつける.
- 493) 豊嶋 弘 (1996) ゴキブリ目. 「町史ことひら 1. 生物資料編」: 80 (香川県琴平町)
オオゴキブリの記録を含む. 金刀比羅宮境内, 1993. 9. 14, 1♀. 境内ライトへの誘引個体. 琴平山・愛宕山の朽木・倒木の樹皮下などで見られることにふれる. 県内の既知産地は少ないと付記.
- 494) 戸嶋一成 (1989) オオゴキブリ採集記. かまくらちょう, (23): 16~18
神奈川県津久井郡城山, 1989. 7. 22, 9♂, 2♀+幼.
- 495) 辻 英明・加藤顕剛 (1952) 「改訂伊豆の昆虫」: 1~24 (韭山高校生物部)
所産種の一つにオオゴキブリを挙げる. データなし.
- 496) 塚本圭一 (1952) 冠島採集記. 昆虫の科学, 1(1): (4~15
ツノオオゴキブリが朽木に多いことを記録 (1951. 8. 4~10). 標本写真をつける (京都府).
- 497) 妻高生物部 (1984) 銀鏡・竜房山の昆虫類. ババ池, (14): 9~23
オオゴキブリの記録を含む. 宮崎県西都市上原, 1983. 8. 17, 1 ex. コバネオオゴキブリ *Salganea esakii* にもふれる. 上原, 1983. 8. 17, 1 ex.
- 498) 内田正吉 (2000) 南部先生採集の屋久島の直翅類. 埼玉動物研通信, (50)33
オオゴキブリを含む. 上屋久町国割岳, 1999. 8. 25, 1♀.
- 499) 上田 丞 (1965) 山口の動物. 「山口の自然」: 36~42 (六月社)
オオゴキブリの産地として阿武郡田万川町小川, 玖珂郡美川町を挙げる.
- 500) 浦川虎郷 (1994) 「壱岐島動物目録」: 1~93 (壱岐・島の科学研究会)
オオゴキブリを所産種の一つに挙げる. 島内各地の朽木で見られることにふれる.
- 501) 浦田明夫 (1964) 対馬の動物. 「新対馬島誌」: 45~66 (同刊行会)

所産種の一つにオオゴキブリを挙げる。データ詳記なし。

- 502) 浦田明夫 (1977) 五島列島のコン虫類の記録。こがねむし, (31): 26
オオゴキブリの記録を含む。奈留, 1977. 8. 4, 1 ex.; 1977. 8. 5 (1 ex.);
青方, 1977. 8. 6, 1 ex.
- 503) 臼田明正ほか (1989) オオゴキブリ, 「なごやの昆虫」: 125 (名古屋昆虫館)
夜間樹液をなめにくること; 熱田神宮境内林や東山丘陵地に生息すること,
その他略図をつける。
- 504) Walker, F. (1868) Panesthiidae. Catalogue of the Specimens of Blattariae
in the Collection of the Britische Museum: 20~24, 132, Britische Mu-
seum
Panesthia 属のゴキブリ17種のリストを含む。 *angustipennis* は *aethiops*
の synonym として扱う。
- 505) 渡辺一雄 (1977) 昆虫相, 「小笠山の自然環境保全と利用に関する調査報告書」:
33~51 (静岡県・静岡県林業会議所)
オオゴキブリを所産種の一つに挙げる。データなし。掛川市ほか。成虫の
標本写真をつける。
- 506) 渡辺一雄 (1978) ゴキブリ, 「静岡大百科事典」: 260 (静岡新聞社)
オオゴキブリの解説を含む。サクラの樹皮下に群棲する例が見られること
など。成虫の標本写真 (モノクロ) をつける。産地の特定なし。
- 507) 渡辺一雄 (1980) オオゴキブリ, 「第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告
書 (昆虫類) 静岡県」: 56 (環境庁)
現認産地: 浜松市利町五社神社・三組町秋葉神社。文献記録: 小笠郡大東
町小笠神社。
- 508) Wu, Ch. F. (1935) Orthoptera, Family Blattariidae. Catalogus Insectorum
Sinensium, vol. 1: 15~33, Fan Mem Inst. Biol.
中国産 Panesthiinae のゴキブリとして *angustipennis*, *bramia*, *manda-
rina*, *ornata*, *spadicum* の5種を挙げる。分布は *angustipennis*: China,
Sumatra, Borneo, Philippines, Amboina, Java, Burma, Malacca, For-
mosa, Japan; *spadicum*: China (Kwangtung), Formosa, Japan とす
る。
- 509) 八木繁一 (1931) Orthoptera, 「愛媛県動物誌」: 88~90 (松山堂)
Panesthia angustipennis おほあぶらむしの名で収録。データなし。
- 510) 矢島 稔 (1966) こんちゅうえんニュース。インセクトarium, 3(8): 116~117
飼育中のオオゴキブリが羽化したことの記録を含む (1964. 12 から飼育。
1年8ヶ月後, 1966. 6. 28 羽化, リンゴで飼育)。
- 511) 山口 貢 (1967) 小田原周辺のオオゴキブリ。神奈川虫報, (4): 260
小田原市大雄山, 1967. 3. 19, 幼虫 (終齢, 1~2 齢; 朽木の樹皮下より);
小田原市小田原高校プール付近, 1967. 8. 23, 1 ex. (ジュースびんの中よ

- り). その他閑院邸での目撃例にもふれる.
- 512) 山本栄治 (1958) 小田町のゴキブリとハサミムシ. 愛媛の昆虫, (5): 32
オオゴキブリ: 林床の太い朽木によくみるが, 樹上の朽ちた幹にいることもある, など. 地名の詳記なし.
- 513) 山本栄治・土居雅恵 (2000) 小田町周辺のゴキブリ類. 「小田深山の自然Ⅱ」: 79~81 (愛媛県小田町)
オオゴキブリの記録を含む. 上浮穴郡小田町, 1990. 5. 31, 2 exs. ほかに1990~1997年間の11例, 34 exs. 生息環境 (広葉樹・アカマツの朽木, 倒木だけでなく, 生木の樹洞・立枯木でも見られる), 習性 (初夏から秋の移動分散時には路上・庭などにも出現), 飛翔性 (翅が完全な新成虫でも飛べない. 投げ上げてはばたくだけ), などにもふれる. 標本写真 (モノ) をつける.
- 514) 山本義丸 (1948) 昆虫の越冬状態の調査. 自然研究, 2(1): 22~25
オオゴキブリが成虫態で越冬していたとの記録を含む.
- 515) 山本義丸 (1952) 郷土氷上郡の昆虫相について. *Natura*, (7): 8~13
オオゴキブリが柏原の朽木に稀でないことにふれる.
- 516) 山根孝夫・神谷寛之 (1958) 長崎市近郊の採集地. 「九州の昆虫・採集案内」: 44~48 (陸水社)
長崎市にオオゴキブリが多産することにふれる.
- 517) 山崎柄根 (1966) オオゴキブリ. 「原色昆虫図鑑 (日本百科大事典別冊)」: 235, pl. 3, fig. 1 (小学館)
Panetia (*Panesthia* のミスプリント) *spadica* の学名で解説. 形態, 分布 (本・四・九・琉・台), 生活環境 (朽木中, 木材食), 胎生であること, など.
- 518) 山崎柄根 (1979) 日本列島のゴキブリ——屋内生活者と野外生活者. 自然科学と博物館, 46(2): 77~81
朽ち木中に幼・成虫が群棲, 原始的な社会生活をし, セルロースの分解に原虫の助けを借りるオオゴキブリ科の解説を含む. オオゴキブリ (青森~屋久島) のほかクチキゴキブリ類にもふれ, その中のイリオモテクチキゴキブリ (仮称) を日本最大のゴキブリとする.
- 519) 山崎柄根 (1985) ゴキブリ科. 「旺文社図鑑. 1. 昆虫の観察」: 99 (旺文社)
オオゴキブリの標本写真 (カラー) と解説を含む. 分布 (本・四・九・屋), 越冬 (卵・成虫), 習性 (朽木中に潜り, 群棲することが多い) など.
- 520) 山崎柄根 (1985) ゴキブリ科. 「野外観察図鑑 1. 昆虫」: 99 (旺文社)
前項の改題本. 内容は同じ.
- 521) 山崎柄根 (1986) 今月の虫・オオゴキブリ. *インセクトリウム*, 23(1): 27
セルロースの分解酵素を出すべん毛虫を腸内に宿し, 材中での生活を成り立たせていること; 卵胎生で子虫を産み, トンネル内では親子が同居, 家族生活の初原的ともいえる形を見せること; 成虫の翅はすり切れたり仲間

- にかじられたりして損傷がはげしいこと；ゴキブリの中では材部で生活することに支えられ、低温地帯にまで分布を広げ得たグループであること；低温限界は1月平均気温が3°C付近、これ以下になると腸内のべん毛虫が耐えられなくなり、ゴキブリも生存できなくなること；などにふれる。
- 522) 山崎柄根 (1986) 今月の虫オオゴキブリ訂正. インセクトリウム, 23(3): 90
オオゴキブリの腸内原虫を *Clevelandella* 属の繊毛虫に訂正. 原虫だけでなくバクテリアも消化に利用していることにふれる。
- 523) 山崎柄根ほか (1999) オオゴキブリ. 「ニューワイド学研の図鑑 1. 昆虫」: 134 (学習研究社)
標本写真 (カラー) と略解. 分布 ((本・四・九) と食性 (木を食べる) など。
- 524) 山下善平 (1967) 1966年宮城県金華山で行なわれた目撃採集および観察による昆虫調査の一例. 「各種陸上生態系における二次生産構造の比較研究 (昭和41年度報告) 加藤陸奥雄編」: 126~129, 2 pls. (加藤陸奥雄)
オオゴキブリの記録を含む. せせらぎの森付近, 1966. 8. 3. モミの倒木より成・幼虫多数. 分布北限地として金華山の分布を再確認したと付記。
- 525) 山下善平・村井俊郎 (1980) 伊勢神宮境内地の直翅類相. 「伊勢神宮境内地昆虫調査報告書」: 227~248 (神宮司庁)
オオゴキブリの記録を含む. 外宮, 1968. 4. 14; 1969. 4. 8; 内宮神域, 1970. 3. 22; 1974. 11. 10; 逢坂峠, 1972. 9. 28. 三重県伊勢市。
- 526) 山下善平ほか15名 (1968) 三重大学平倉演習林の昆虫目録. 三重大学農学部演習林資料, (1): 1~94
オオゴキブリを所産種の一つに挙げる。
- 527) 山内 智 (1996) 世界遺産白神山地考察㊟オオゴキブリとの出会い. れちおん青森, (212): 53
オオゴキブリが十二湖から白神岳に向かう途中の朽木で発見されたことにふれる. 朽木の写真と採集されたオオゴキブリの生態写真 (モノクロ) をつける。
- 528) 山内 智 (2000) オオゴキブリ. 「青森県の希少な野生生物——青森県レッドデータブック」: 219 (青森県生活環境部自然保護課)
Cランクとして選定. 青森県西津軽郡岩崎村十二湖を分布北限産地として位置づける. 国内分布や保全対策にもふれる。
- 529) 山谷文仁・草刈広一 (1984) 山形・宮城の直翅類—山形・宮城地方昆虫分布資料 (5). 山形昆虫同好会誌, (13): 1~35
オオゴキブリの記録を含む. 山形県西田川郡温海町鼠ヶ関, 1982. 2. 18, 1♂, 1♀; 宮城県牡鹿郡牡鹿町金華山, 1978. 11. 19, 1♂; 新潟県岩船郡山北町寒川, 1981. 4. 18, 1♂, 1♀。
- 530) 山屋茂人 (1980) 新潟県湯沢町のオオゴキブリ. 昆虫と自然, 15(14): 11~12

- ブナ原生林でオオゴキブリを採集した記録. 南魚沼郡湯沢町貝掛 (750m), 1979. 11. 3, 中〜終齢幼虫 1 ex. (ブナの立枯木, 地上 2 m の位置より) 採集時, 中胸背の後縁に西表島産の個体に見られるような橙赤色紋を具えていたこと (死後消失) にもふれる. 標本写真をつける.
- 531) 山崎秀雄 (1999) 千葉県網走目・ハサミムシ目・シリアゲムシ目. 「千葉県動物誌」: 244~248 (文一総合出版)
オオゴキブリを含む. 産地として印旛郡印西町木下, 長生郡長柄町笠森, 茂原市上永吉, 市原市養老溪谷・梅ヶ瀬, 高宕山, 君津市東山林道・元清澄山を挙げる.
- 532) 山崎一夫・大築正弘 (1997) 臨南寺のオオゴキブリ絶滅への道. *Nature Study*, 43(1): 3~5
大阪市東住吉区長居公園の西端に位置する臨南寺. 1970年代までは照葉樹の社寺林が残り各種昆虫の生息が見られたが, 1980~1990年代, 周辺の環境変化, 墓地の拡大などで樹林が失われ, 境内に 1 本だけ残る朽木で細々と生き続けていることにふれる. 臨南寺とその周辺の地図, 現在オオゴキブリが見られる朽木の写真, 1984年採集の♂標本写真, 1996年, 境内に立ち入った人間に, タバコとマッチで焼き殺されたオオゴキブリ死体の写真, 1982~1996のオオゴキブリ記録状況を示す表などをつける.
- 533) 柳田恒一郎 (1992) 東京都八王子市御衣霊園・初沢山昆虫調査報告. *Eximia*, 4: 13~32
オオゴキブリの記録を含む. モミ倒木中, 1991. 3. 7, 1 ex. + 幼虫.
- 534) 屋代弘孝・坂口総一郎・安座間喜勝 (1959) 昆虫網. 「沖縄産動物目録」: 234~366 (沖縄生物教育研究会)
オオゴキブリを *Panesthia angustipennis* の学名で収録. 分布を沖・本・台・東洋熱帯各地とする.
- 535) 安富和男 (1993) 長寿の虫・ゴキブリ. 「ゴキブリ 3 億年のひみつ」: 1718 (講談社)
オオゴキブリの凸版図を含む. 種族としての寿命が中心. 個体としての寿命については詳記なし.
- 536) 淀江賢一郎 (1988) オオゴキブリを灯火で採集. すかしば, (30): 55
松江市比津ヶ丘, 1987. 7. 30, 1 ex. (light).
- 537) 横関秀行 (1996) 上野市法花でオオゴキブリを採集. ひらくら, 40(5): 289
1993. 7. 13, 1 ex. コナラ朽木の樹皮下より (三重県).
- 538) 吉田元重・後藤 伸 (1995) 昆虫類の記録<予備調査を含む>. くろしお, (14): 43~50
オオゴキブリの記録を含む. 和歌山県海草郡美里町未来, 1995. 8. 5~6.
- 539) 吉安 裕・笹川満広 (1998) 桂川流域の昆虫相 (第 1 報) 水生昆虫相と男山の昆虫相. 「桂川流域学術調査報告」: 219~242 (京都市立大・京都市立大女子短

期大学部)

オオゴキブリの記録を含む. 京都府八幡市男山, 1978. 6. 22 (ex. なし).

- 540) 無名子 (1985) 自然観察会の報告・ふれあいの里・奥出雲公園. 山陰むしの会連絡誌, (33): 187

島根県飯石郡掛合町波多でオオゴキブリが得られたことにふれる.

- 541) 無名子 (1986) 季節の昆虫・オオゴキブリ. 昆虫館だより, (17): 2

生態写真(モノクロ)と解説. 箕面公園ではかなり多く, 倒木を割ると必らずといってよいほど見つかることなど(大阪府箕面町).

- 542) 無名子 (1990) 少し暗い林の中の雑多な昆虫・宝山寺周辺. 虫花子, (34): 140
奈良市宝山寺周辺でオオゴキブリがよく見られたことにふれる.